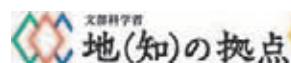


平成29年度
スーパーハイスクールセッション
成果報告書

平成30年3月

岐阜大学地域協学センター



目 次

1. はじめに	1
岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一	
岐阜県教育委員会事務局学校支援課長 北岡 龍也	
2. スーパーハイスクールセッション概要	3
3. スーパーハイスクールセッションの取組み	5
(1) 第1回スーパーハイスクールセッション	
(2) 第2回スーパーハイスクールセッション	
(3) 第3回スーパーハイスクールセッション	
(4) 第4回スーパーハイスクールセッション・アイデアコンクール	
4. SSS 参加生徒への質問紙調査	30
(1) 調査の目的	
(2) 調査項目の作成	
(3) 調査の実施と分析の概要	
(4) 調査結果1 リッカート尺度の結果分析	
(5) 調査結果2 質問紙調査における自由回答欄の分析	
(6) 調査結果3 概念マップの分析	
(7) 結論	
5. おわりに	48

【資料】

- * 平成29年度「魅力ある高校づくり推進事業」におけるスーパーハイスクールの深化実施要項
＜岐阜県教育委員会＞
- * Super High School Session 2017「岐阜県の活性化ー地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！ー」アイデアコンクール実施要項＜岐阜県教育委員会学校支援課＞
- * 参加高校生による概念マップ
- * アンケート質問紙
- * 岐大フェアパネル＜岐阜大学地域協学センター＞

1. はじめに

岐阜大学は、地域に貢献し、「地域活性化の中核拠点」となるべく、平成25年度からCOC・COC+事業(※)に取り組んでおり、COC+事業の一つである高大連携事業では、平成28年度から岐阜県内の高校等に通う生徒を対象に「宇宙工学講座」を開催するなどの取組みを行っています。

平成29年度は、さらに岐阜県教育委員会と岐阜大学が共同でスーパーハイスクールセッション【SSS】を開催しました。スーパーハイスクールセッションは、平成28年度から岐阜県教育委員会において実施されている事業で、県内のスーパーハイスクールから意欲のある生徒を集め、互いの研究成果を生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出し合う取組みです。大学としては、高校生が高等教育への興味・関心を喚起され、大学への進学意欲をより高めてもらうことも期待して実施したものです。

実際に岐阜大学のキャンパスで大学を体感しながら、高校生と大学生が共にセッションに参加することで相乗効果が生まれ、大きな成果をもたらしたことが、終了後に実施したアンケートからも確認することができ、高校と大学の連携は今後ますます重要であると感じた次第です。

そこで、終了後に高校生及び大学生に実施したアンケート結果の内容とその分析結果を、スーパーハイスクールセッションの成果としてまとめることにしました。

この成果報告書が、関係各位の今後の地域を志向する活動や高大連携の推進の一助になれば幸いです。

※岐阜大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC+ センター オブ コミュニティ (Center Of Community+) 事業)」

- | | |
|------|--|
| 事業名称 | 岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成 |
| 目的 | 他大学・企業・自治体・金融機関とが協働して地元企業と学生の関わりを強化し、地域のニーズに適合した人材を育成することで、地元定着の促進を図る。また、大学の知を活用した産官学共同研究を通じて、産業振興を促進し、雇用創出の取組みを進める。 |
| 事業概要 | ①新規教育プログラムの実施
②産官学共同研究を通じた学生にとって魅力のある雇用の創出
③参加大学が共同で取り組む高大連携事業や県内企業との連携事業の実施 |

岐阜大学地域協学センター長
益川 浩一

岐阜県教育委員会では、県内のスーパーハイスクール（スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）及びスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）の指定校）から意欲のある生徒が集まり、互いの研究成果や各校での学習で身に付けた知識・技能等を生かして、自由なアイデアを出し合いながら課題の解決策を提案する「スーパーハイスクールセッション（SSS）」を、平成28年度から実施しています。

平成29年度の本事業は、岐阜大学の御協力を得て、同学を会場に実施させていただきました。「岐阜県の活性化 ー地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！ー」をテーマに、高校生がグループセッションを行いました。グループセッションでは、岐阜大学の学生が各グループに入って、ファシリテータの役割を担っていただくことで、生徒たちの議論も一層活発になり、また、生徒たちが提案をまとめる過程でも、学生が日々の学修の中で身に付けられた分析や表現の能力を高校生に還元して下さることで、素晴らしい提案の発表が実現できました。いずれの提案もユニークなものであり、甲乙が付けがたいものではありますが、その中で最優秀となった提案は、高校生らしい着眼点と問題意識に立脚しながら、調査研究の過程ではフィールドワークなどを行って大学生にも引けを取らない水準の取組を実現し、決して「他人事」ではない高校生ならではの提案を生み出してくれました。この提案については、後日、県知事が出席する「ガヤガヤ会議」において、代表生徒が発表しました。

このように、SSSは参加生徒にとって得難い学びの機会になりましたが、同時に、県教育委員会や県内の高等学校と岐阜大学が手を取り合い、共に岐阜県の子どもたちに対してよりよい学習環境を提供するという一つの事例とすることができたのではないかと考えております。県教育委員会としても、この度のSSSにおける取組を契機として、岐阜大学との間で一層の連携を図り、本県の教育、そして岐阜大学における教育研究の更なる発展を願うところです。

最後になりましたが、岐阜大学地域協学センター長の益川浩一教授をはじめとする同センターの皆様、教育学部の加藤直樹教授におかれましては、事前の準備から当日の指導・講評まで多大なる御尽力を賜りましたことに、厚く御礼を申し上げます。また、本事業に御協力をいただいた学生の皆様におかれましては、時には「先生」となり、時には「先輩」となるなど、高校生諸君を出口まで導いて下さったことに深く感謝を申し上げます。

岐阜県教育委員会事務局学校支援課長
北岡 龍也

2. スーパーハイスクールセッション概要

「岐阜県の活性化 ―地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！―」

1 目的

学んだ知識を社会と関連付けながら経験によって磨き、将来、グローバル社会で活躍したり、科学技術の発達に貢献したりする取組を進めるため、本県のスーパーハイスクール（スーパーグローバルハイスクール（1校）、県指定スーパーグローバルハイスクール（4校）、スーパーサイエンスハイスクール（2校）、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（2校））から意欲のある生徒たちが集まり、互いの研究成果を生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな事業展開につなげられる取組を実施する。

2 スーパーハイスクール

スーパーグローバルハイスクール	大垣北高等学校
スーパーグローバルハイスクール（県指定）	岐阜商業高等学校、関高等学校、 多治見北高等学校、斐太高等学校
スーパーサイエンスハイスクール	恵那高等学校、岐阜農林高等学校
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール	大垣桜高等学校、岐阜工業高等学校

3 事業の実施

(1) スーパーハイスクールセッション 全3回

県立のスーパーハイスクール9校の生徒（各校3～5名程度）が集まり、1グループ6名程度のグループを編成する。（全5～6グループ程度）

それぞれのグループにおいて、研究テーマを設定。県内の各種団体や企業の抱える課題等をリサーチし、その中で地域の活性化につながる内容を研究テーマとする。

全3回のSSS会議の中で、互いの研究成果を生かして連携し企画書を作成する。

研究テーマの設定や企画書の作成にあたり、岐阜大学の学生の助言を受ける。

(2) スーパーハイスクールセッションアイデアコンクール

以下6～10による。

4 スケジュール

第1回スーパーハイスクールセッション	平成29年7月2日（日）
第2回スーパーハイスクールセッション	平成29年7月28日（金）
第3回スーパーハイスクールセッション	平成29年8月20日（日）
第4回スーパーハイスクールセッション	平成29年8月22日（火）
アイデアコンクール	平成29年8月22日（火）

5 会場

岐阜大学

6 アイデアコンクール発表内容

『岐阜県の活性化 ―地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！―』をテーマに、それぞれのグループにおいて、互いの研究成果を生かしながら、企画書を作成し、発表する。

ただし、内容には、次の2点を盛り込むこと。

①県や市町村等への提案

②高校生が実施可能なプラン

7 アイデアコンクール発表規則

(1)発表時間は、7分程度とする。指定時間より大幅に不足又は超過の場合は減点対象とする。

(2)プレゼンテーションソフト(PowerPoint など)や、手書きの提示資料(模造紙、ポスターなど)などを用いて行うこと。

(3)発表資料への映像、音声の埋め込みを最初の1分程度入れること。

(4)作成した実物(農作物、部品、実験装置、機器等)を提示及び使用してもよい。

(5)専門分野に詳しくない聴衆が聞いても、発表内容が理解できるよう工夫して発表すること。

(6)発表終了後、発表内容に関して、質疑応答(5分程度)を行う。質問は審査員だけでなく、他の参加発表者も積極的に行う。質問内容も審査対象になる。また、質問者は同一人物に偏らないようにチームで配慮すること。

(7)発表資料の作成に当たっては、著作権や肖像権などに配慮すること。

8 アイデアコンクール審査基準

(1)話し方 : 表現、声の大きさ、適度な速さ、明瞭さ、アイコンタクト

(2)内容 : 構成力、分かり易さ、実現可能性、独自性

(3)発表資料 : 効果的な資料の使用、発表内容との関連性、情報の収集方法

(4)即興性 : 質問への対応力、他の参加者へ簡潔かつ適切な質問をする力

(5)協力 : チームとして全員で協力していたか

9 アイデアコンクール審査員

大学教員、教育委員、教育委員会幹部等

10 アイデアコンクール表彰

上位2グループ

3.スーパーハイスクールセッションの取組み

(1) 第1回スーパーハイスクールセッション

<日 時> 7月2日(日) 午前10時～午後3時40分

<場 所> 岐阜大学 附属図書館1階 アカデミック・コア

<参加者> 参加生徒 30人(9校)

◇開会

挨拶 岐阜県教育委員会事務局学校支援課長 北岡 龍也
岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一

◇有識者による講演

①岐阜県商工労働部労働雇用課

管理調整監 清水 浩二 様

「データから見た岐阜県の特徴と課題」

岐阜県の特徴、産業、課題について多くの統計データを示しながら楽しくわかりやすく説明していただいた。



②多治見まちづくり株式会社

ゼネラルマネージャー 小口 英二 様

「『まちづくり』を自分の仕事に」

「まちづくり」の仕事をされている経緯ややりがい、苦労話など、学生時代からこれまでを振り返りながら、若者へのメッセージも交えながらお話していただいた。



<参加者の感想>

- 講師のお二人の方の話を聞いて、岐阜県の良さを改めて感じると共に、自ら考えて行動するという当たり前なことの大切さを学ぶことができた。
- 岐阜の誇れるところや自分が今まで知らなかった岐阜の意外な一面について学ぶことができた。全国にあまり知られていない物産や建造物、文化などがたくさんあると思うから僕たち若い世代が広めていきたいと思った。
- お二人の講演を聞いたことで、自分が知っているつもりだったことが違っていたり、これから社会に出て働いたり活躍していくために自分がどう考えて行動して自分の地元に貢献しているのかも知ることができて良かった。



◇グループ研究

<ファシリテーター> 岐阜大学教育学部 教授 加藤 直樹

参加高校生30名が5つのグループに分かれて自己紹介を行ったあと、岐阜県の課題の発掘のためのグループ研究を行った。グループ研究には大学生7名も参加し、緊張をほぐすためのアイスブレイクやファシリテーションを担当した。どのグループも、高校生・大学生共にすぐに打ち解け、活発に意見を出し合うことができた。



<参加者の感想>

○ グループで活動してみて、一人ひとりが積極的に意見を出し、真剣に岐阜県の問題を考えている姿を見て、これだけ地元愛が強いことに感動した。

○ 最初は緊張したけど大学生の先輩がアイスブレイクをやってくださったおかげで緊張がほぐれて楽しく、仲良くできた。

たくさん意見を出して、話してよいグループワークができた。

すごく楽しくてあっという間でした。



○ 別の高校の生徒さんと話す機会が少ないので、このような会を開いていただけてうれしい。岐阜県民が岐阜の良さを知らなければ伝わるものも伝わらないので、自分も全面的に調べものをしていく。

○ 違う土地に住んでいるだけでこうも考えに幅が生まれて、広く展開されていくのかと感動した。すごく面白い！

SSS会場について

今回のSSSは、全4回にわたり岐阜大学を会場として開催しました。

第1回は、図書館1階のアカデミック・コアを、第2～4回は、アクティブラーニング教室、アイデアコンクールは105大講義室を使用し、いずれも大学の雰囲気を感じてもらうことを目的としました。特に、アカデミック・コア及びアクティブラーニング教室は、稼働可能な机と椅子や、大型のホワイトボードを設置するなど、主体的で能動的な学びを展開できる場として様々な工夫がされています。

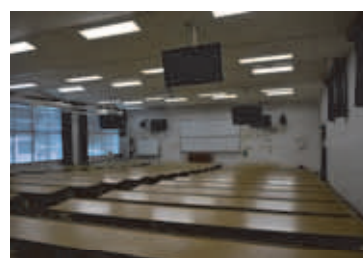
参加した高校生は、大学の先進的な設備を利用できることに感嘆し、より刺激を受けている様子でした。



アカデミック・コア



アクティブラーニング教室



105大講義室

(2) 第2回スーパーハイスクールセッション

<日 時> 7月28(金) 午前10時~午後3時40分

<場 所> 岐阜大学 全学共通教育講義棟 コモンズ1A教室

<参加者> 参加生徒 28人(9校)

◇プレゼンテーション講習会

<講 師> 日本福祉大学

国際福祉開発学部教授 影戸 誠 様

「効果的なプレゼンテーションとは」

「いいプレゼンって?」という問いかけをもとに、プレゼンの構成、資料のつくり方、話す力についてたくさんの事例を交えてわかりやすく説明していただいた。



<参加者の感想>

- プレゼンテーションにおける大切なポイントを多く教えていただいた。特にパワーポイントに力を入れるばかりでなく話す技術、語りかける技術も大切だとわかった。
- 表情をしっかり作って、聞く人に配慮した発表ができるように、第4回までに準備、練習をしっかりして相手に伝わる上手なプレゼン能力を身に付けたい。

◇i-Movieによるビデオ制作のために

<講師> 岐阜大学教育学部 教授 加藤 直樹

アイデアコンクールでのプレゼンテーションには、映像及び音声を1分程度入れ込むことが条件となっているため、i-Movieの使用方法について説明を行った。

◇グループ研究

第2回のグループ研究の最後に、各グループで取り組む課題を発表することになっており、どのグループも前回以上に真剣な表情で話し合いを行っていた。中には、第1回終了後に、調査や取材を行い情報収集したグループもあり、積極的に課題を見つけ出そうとする姿が見られた。

<参加者の感想>

- 話がどんどん具体化していくのが楽しかったし、取材の内容もちゃんと決まって、これからが楽しみだ。意欲のある仲間と頼れる先輩方と、これからも積極的に活動して、実りあるものにしていきたい。
- あまり意見を出せなかったのが、積極的に出せるようにしたいし、いざ人前に立つと、言葉に詰まってしまうので、まだまだ練習がいると思った。



◇グループ課題の発表

- | |
|--|
| 1班 Sustainable Tourist Spots Development ～持続的に客を呼び込む観光地作り～ |
| 2班 岐阜市を観光名所にするには ～隠れた名所発見～ |
| 3班 バス事業の現状 ～高齢者が利用したくなるバスへ～ |
| 4班 岐阜の人が岐阜のものに詳しくなるために |
| 5班 廃校イノベーション |

<参加者の感想>

- 次のセッションまでに解決策をそれぞれ調べて、提案していくところを目標に、個人でも頑張っていて考えていきたい。
- 課題（テーマ）を発表して、さらに新たな課題が見つかったので、次の回まで解決策をじっくり考えていけるようにしたい。

（3）第3回スーパーハイスクールセッション

<日 時> 8月20（日）午前10時～午後3時30分

<場 所> 岐阜大学全学共通教育講義棟 コモンズ1A教室

<参加者> 参加生徒 25人（9校）

<内 容>

◇グループ研究

第3回のグループ研究は大詰め。企画の練り上げ、プレゼンテーション資料やi-Movieの制作など作業が目白押しの中、各グループそれぞれが役割分担をしながら作業をすすめた。

<参加者の感想>

- 的確に役割分担して限られた時間の中でパワーポイントとi-Movieの作成をすることができた。大まかなプレゼンの時間配分と話す内容も決められて良かった。
- 楽しみながらより良いものをつくろうと話し合っ、行動して、作業が進められたと思う。今回一番自分の特技（画像の制作、パソコンの操作）を生かした。すごく楽しい。



(4) 第4回スーパーハイスクールセッション・アイデアコンクール

<日 時> 8月22(火) 午前10時～午後4時00分
<場 所> 岐阜大学 全学共通教育講義棟 コモンズ1A教室
<参加者> 参加生徒 29人(9校)
<内 容>

◇午前・グループ研究

第4回のグループ研究は発表資料の最終確認とリハーサル。本番さながらのリハーサルと資料の修正を繰り返し、最後まで少しでも良い発表を行おうと努力する姿が印象的だった。



<参加者の感想>

○ 主にリハーサルとパワーポイント、原稿の直し、補足を行った。みんな各自で積極的に取り組むことができていた。

岐阜県の活性化ー地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！ー
アイデアコンクール

<日 時> 8月22(火) 午後1時00分～午後4時00分
<場 所> 岐阜大学 全学共通教育講義棟 105教室
<参加者> 参加生徒 29人(9校)

◇開会

挨拶 岐阜県教育委員会教育次長 折戸 敏仁

◇審査員紹介

- 審査員長 岐阜大学教育学部附属学習協創開発研究センター教授 加藤 直樹
- 審査員 岐阜大学地域協学センター副センター長 佐々木 実
- 審査員 岐阜県教育委員会教育委員 野原 正美
- 審査員 岐阜県教育委員会教育次長 折戸 敏仁
- 審査員 岐阜県広報課広聴監 永井 明子

◇グループ発表

1 班 Sustainable Tourist Spots Development
～持続的に客を呼び込む観光作り～

【発表概要】

- *岐阜県には魅力的な観光地が多いが、その魅力をうまく伝えられていない。
- *高速道路と繋がっているスポットやショッピングモールに来る



家族連れをターゲットに、最寄りの観光地を紹介したツアーマップを、割引券やお得な情報を盛り込んで作成し配布する。

*高校生は、ツアーガイドやフリーペーパーの作成で協力する。

【質問】

Q. 県外の方や遠くの方へツアーマップを配布しないのか。

A. 岐阜県に近い富山市や名古屋市に観光マップやフリーペーパーを配置。高山や白川郷など有名な観光地にも配置することも考えている。

Q. 海外から来た方にも有効だと思うか。

A. 有効だと考える。効果があれば、英語版や他の言語のツアーマップも作成する。



2 班 岐阜市を観光名所にするには～高校生が隠れた名所を発見～

*岐阜県の玄関口である岐阜市の観光客数が少ない。インターネットでも岐阜市の観光地の記載が少ない。高校生が、観光地になりそうなところを発掘し情報を集め発信する。

*観光ルートマップを岐阜駅で発売。買った人は専用アプリに登録でき、各スポットのQRコードを読み取ることで、岐阜出身の作家の小説を読むことができるようにする。観光スポットを巡ることで物語が進む形式にする。スマートフォンとの連動で若い人をターゲットとする。

*SNSで岐阜の情報を発信し、若い人たちに知ってもらうことが重要。

【質問】

Q. 小説は、一つの作品を小分けにするのか。短編をいくつか書いてもらうのか。

A. 岐阜市の観光スポットを題材とした一つの長い物語を区切り、スポットごとに配置する。

Q. 小説のターゲットは。

A. SNSを使うという観点から、高校生から20代後半の若い人をターゲットとする。



3 班 バス事業の現状～高齢者が利用したくなるバスへ～

*バス会社への取材で、バスを増発することは難しいこと、バス車内やバス停付近の環境整備には限度があることが分かった。

*高齢者の利用を増やすために、福祉施設などでバスに関する講習会を開催する。バスの乗り方や運転免許返納者に対するバス料金半額等の制度の説明を行う。回覧板の利用も有効である。



*バスの時刻表も、文字の大きさや色使いを変えるなど、より見やすくなるよう改良が必要。

*高校生は、これらの解決策をバス会社に提案する。

【質問】

Q. 自分で運転したい高齢者に対してはどのような対策をとるか。

A. 家族が促すことが必要。岐阜県としてもそれを推奨することは悪い面ばかりではないと思う。

Q. 高齢者は料金が半額になることもあり、バス会社の利益は少ないのではないか。

A. バス会社に確認したが、売り上げは少ししか下がらなかったとのことだった。利用者を増やすことで、割引をしても利益は得られると思う。



4 班

“岐阜”を知る～県民の県民による県民のための情報サイト～

【発表概要】

*岐阜の人が岐阜のことを知らない。名前しか知らない。

*そんな岐阜の人のために HP を作り岐阜の魅力を伝える。「目的から探す」「場所から探す」の2つの方法で検索できるようにし、営業時間、交通情報など複数の HP を確認しなければいけなかった情報を一度に得られるようにする。レビュー機能をつけ、最新の情報を投稿できるようにする。SNS とメディアを活用し、HP の存在を発信する。

*高校生がレビューで情報提供し、自治体が HP の製作や運営を行う。

【質問】

Q. 岐阜県民に岐阜のことを知ってもらうだけでは、活性化にはつながらない。このHPを見た後、どのようなアクションを起こしてもらうかなど考えはあるか。

A. 岐阜の人に興味・関心を持って足を運んでもらうことで、より説得力のあるアピールができると思う。

Q. HPへの記載事項は営業時間だけではなく込み具合も提供してはどうか。

A. そのようにしたい。



5 班

廃校イノベーション 食と人から岐阜を知る

【発表概要】

*廃校舎を利用し、給食カフェを開く。地元のお年寄りが、地元の素材を使ってその土地に根付いた料理を作り提供する。校舎内で、岐阜県の伝統的な行事や産業を紹介する。グラウンドや体育

岐阜県は魅力が欠けていると思われている。

ランキング

観光客数・・・11/47位(国土交通省)

魅力度・・・42/47位(ブランド総合研究所)



魅力をうまく伝えられていないだけ。

Sustainable Tourist spots Development ～持続的に客を呼び込む観光地作り～

岐阜の魅力を伝え隊

岐阜県の観光の現状

人の集まる観光地は限られている。

- 例) ・土岐プレミアムアウトレット(年間736万人)
- ・河川環境楽園(年間505万人)
- ・モレラ岐阜



ここから他の観光地に客を呼び込む！
ターゲットは家族連れ。

観光客の呼び込み方

- ・人の集まる観光地で他の観光地の情報を発信
- ・岐阜県付近の都市で情報を発信

観光地の情報を発信する方法

ツアーマップを作成



人気のある観光地で配布

高校生にできること

- ・ツアーガイド
- ・フリーペーパーの作成



メリット

観光客：観光地を細かく知ることができる。

高校生：岐阜のことをより深く知ることができる。

まとめ

課題：魅力をうまく伝えられていない。



ツアーマップの作成、配布



結果：持続的に人を呼び込むことができる。

各地区のおすすめの観光地と所要時間について

- ・ここでは、私たちが選んだ観光地の中のいくつかをピックアップして載せています。
- ・所要時間は車を利用した時のものです。

① レールマウンテン Gattan Go!! (飛騨地区)

紹介：廃線になった鉄道のレールをマウンテンバイクで走ることができ、自然にもふれ合えます。

所要時間：富山から1時間15分
高山市飛騨の里から1時間

② みかん狩り (西濃地区)

紹介：海津郡南濃町で体験できます。家族みんなで秋の味覚が楽しめます。

所要時間：モレラ岐阜から50分

③ 冒険の森 in いとしろ (中濃地区)

紹介：郡上の森の中で巨大なアスレチックを子供から大人まで楽しめます。

所要時間：河川環境楽園から1時間30分(高速あり)
2時間15分(高速なし)
福井県福井市から1時間40分
岐阜各務原ICから1時間20分(高速あり)

④ モザイクタイルミュージアム (東濃地区)

紹介：地元で作られたタイルの建物を見たり、タイルの歴史を知ったりすることができます。

所要時間：土岐プレミアムアウトレットから15分

⑤ 金華山 (岐阜地区)

紹介：ロープウェイで頂上まで上がることができ、頂上では岐阜城や岐阜の街並みを見ることができます。

所要時間：河川環境楽園から20分

岐阜市を 観光名所にするには？

高校生が隠れた名所を発見！

By 岐阜市観光名所発見委員会

事前調査

原位	名所	場所
1	高山市三町伝統的建造物群保存地区	高山市
2	下呂温泉	下呂市
3	新穂高ロープウェイ	高山市
4	白川郷合掌造り集落	白川村
5	ひらゆの森	吉城郡
6	アクア・トト ぎふ	各務原市
7	牧歌の里	郡上市
8	岐阜城 天守閣	岐阜市
9	河川環境楽園	各務原市
10	高山陣屋	高山市

じゃらん 岐阜の観光スポット.2017/08/20

課題発見からの流れ

もっと岐阜市を見てほしい！

観光スポットを調査

観光プランを提案

調査方法

- ・岐阜市内の現地調査。
 - 聞き込み調査や写真収集を実施
- ・インターネットのレビューサイトを活用。
 - 観光者の声を聞く


観光プランをどうするか

- ・プランを若者の旅行に活用してもらうために岐阜駅の観光案内所で販売する！



観光専用のアプリを登録

その他の提案

- ・岐阜出身の小説家に原稿を依頼する物語に観光スポットが登場するものにする。
- 
- ・観光地めぐりと一緒に物語を楽しめるようにする。

さらに

- ・SNSで情報発信
例) 「#おいでよ岐阜」でつぶやく



岐阜の注目度UP！



岐阜市観光 モデルコース

岐阜駅



金華山ロープウェイ

金華山の麓と山頂を結び、岐阜城へ。



リス村

オープンゲージの中で、革手袋をつけてエサを与えることができる。



岐阜城 天守閣/資料館

織田信長が建てたお城。全国でも珍しい山城。



(ロープウェイ)



岐阜公園

〔森林浴+食事（店：楽市楽座,美濃健美豚,長良川サイダー）〕

金華山の大自然に囲まれた公園。食事は郷土料理が多め。

飛騨牛カレーが800円で食べられる！



岐阜大仏

奈良の大仏以上の大きさで迫力満点。



柳ヶ瀬商店街

レトロな雰囲気が魅力の商店街。



カフェひふみ/白ごま黒ごま/その他

身体に優しいオーガニックカフェ。岐阜の情報雑誌も数多く置いてある。（ひふみ）



長良川鵜飼観覧船

1300年以上の歴史を生で味わう。学生でも楽しめること間違いなし！



岐阜駅



バス事業の現状 ～高齢者が利用したくなるバスへ～

3G バスレンジャー



活動経緯

- バスの本数が少ない
→ 高齢者が利用しにくい
- 高齢者の自動車事故がある
- 学生が利用しにくい

調査の結果

- 本数が少ない
- バス停の位置
- バス停の環境が悪い

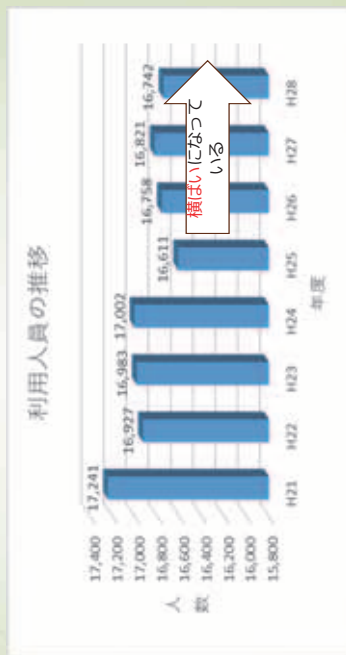
目的

岐阜県では
高齢化が進んでいる
→
高齢者の方の
利用機会を増やす

解決策（仮）

- バスの本数を増やす
- バスやバス停の環境を整える

インタビューして分かったこと



インタビューして分かったこと

- すでに様々な**取り組み**をしている
- 解決策の実現は**困難**
- **お金をかけない**ことが重要



現状

岐阜の人が岐阜を知らない！！

名前「は」知っている

↑ 詳しいことは知らない…



“岐阜”を知る

～**県民の**県民による**県民**のための情報サイト～

☆目的から探す



HPを作ろう！！

<伝えたい事>

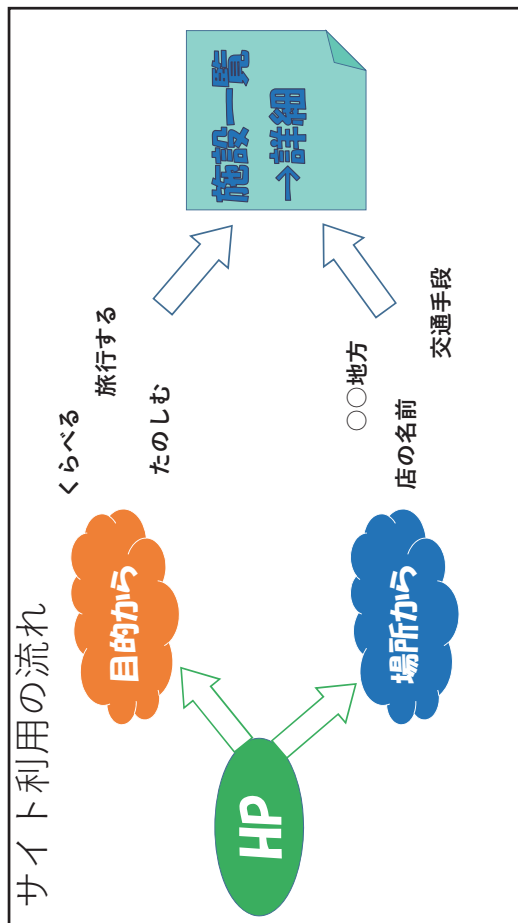
- 地元の人向けの魅力
- 各地方の“おすすめ”、交通手段



HPを知ってもらうために

<HPの宣伝>

- SNS (Facebook, Twitter...) の活用
- メディア (雑誌、フリーペーパー) の活用
- 新聞社に取材を依頼

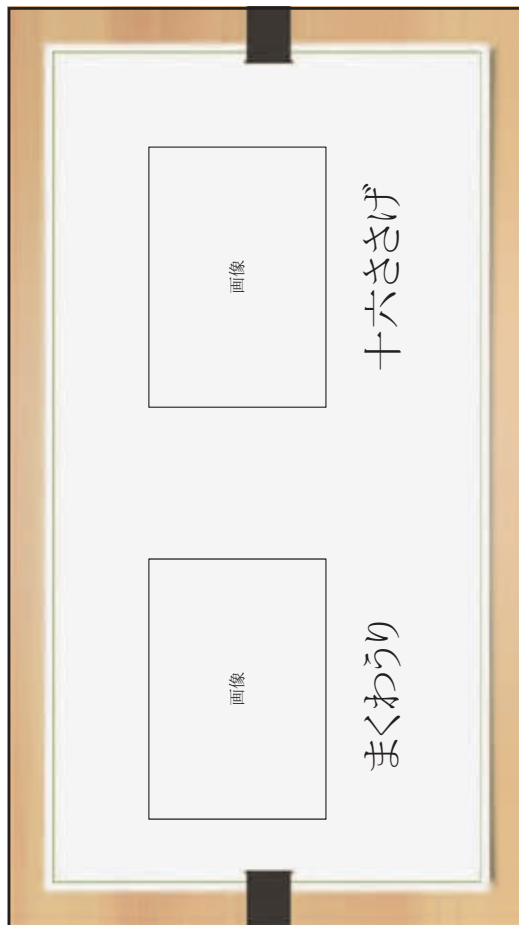


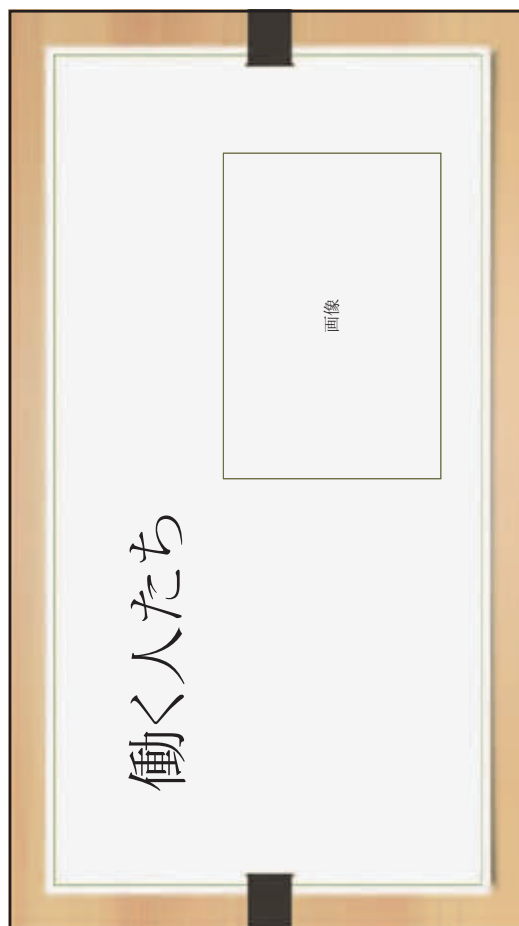
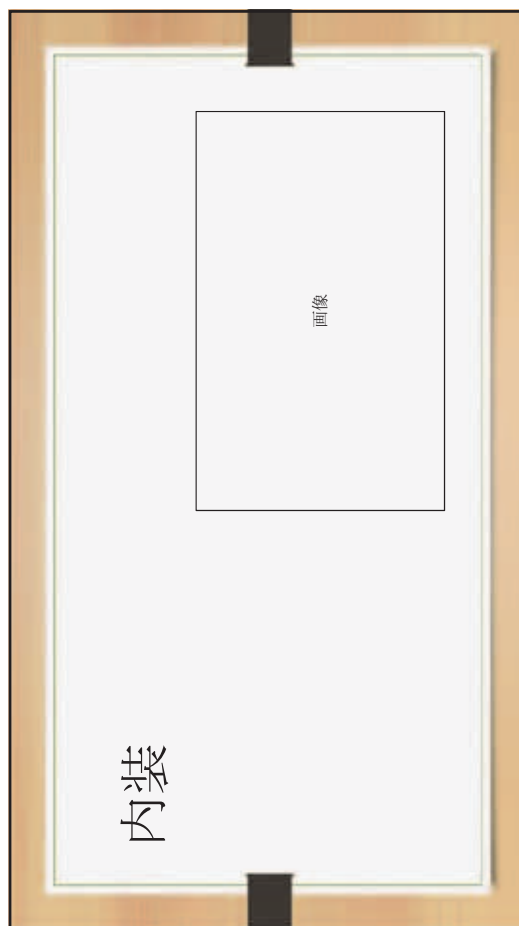
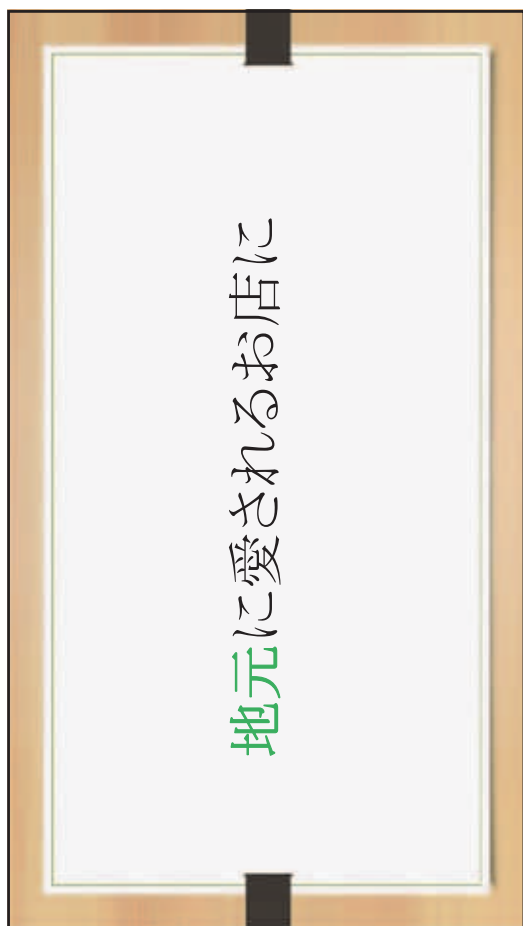
まとめ

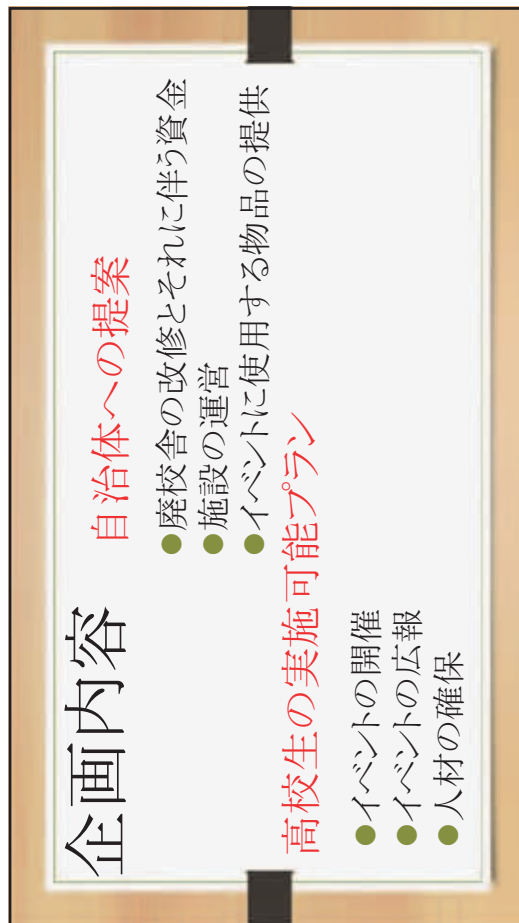
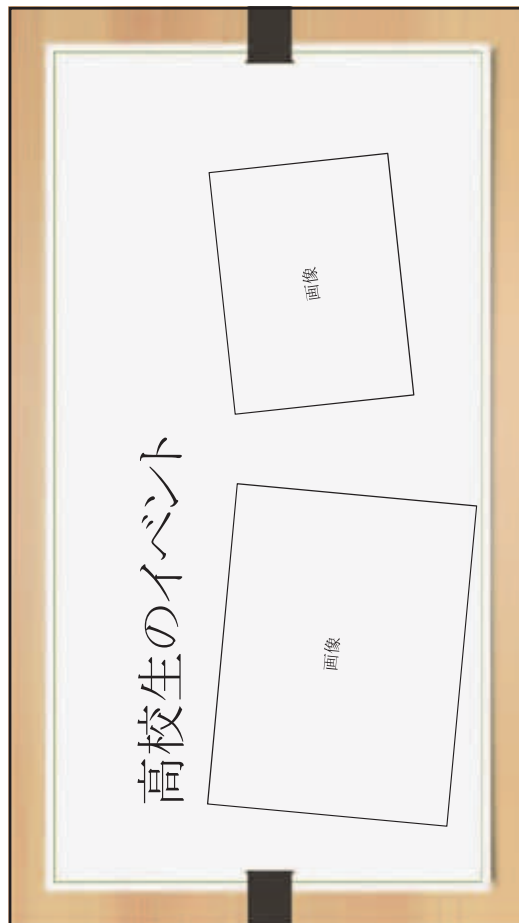
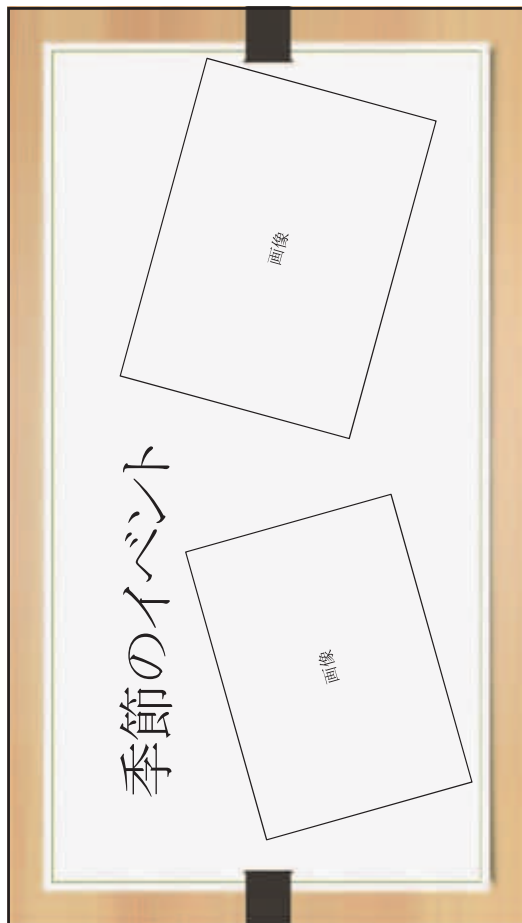
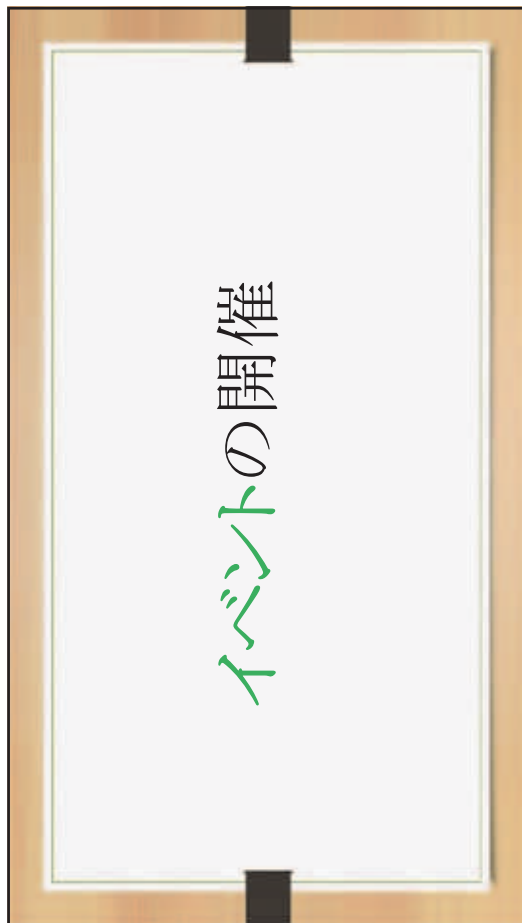
- **地元の人**に地元の魅力を知らせたい！
→ HP作成
- 私たち**高校生**も**協力**したい！
→ レビュー投稿
情報の追加

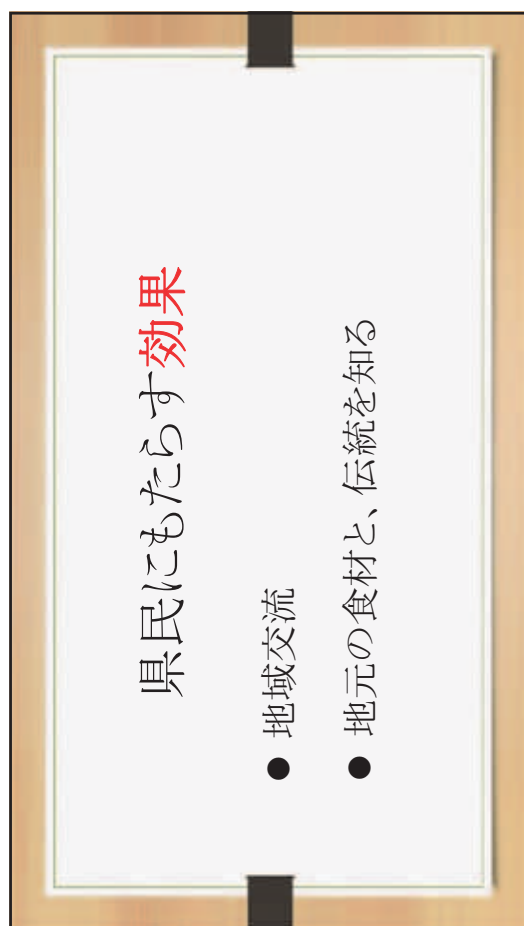
実現するために、

県内の施設・店舗などの協力が必要！！









(夏) 8 月度

曾木小学校

夏のイベント案内

第1回 光るエコ消しゴム作り

岐阜工業高校 化学研究部による、
光るエコ消しゴム作り体験です。

8月12日 14:00～16:00



第2回 器作り体験

実際に曾木小給食カフェで使われる器を、
作ってみませんか？

8月19日 13:00～17:00



第3回 魚釣り・塩焼き体験

肥田川で釣れた川魚を、そのまま塩焼きにして
頂きます。

8月27日 10:00～14:00



❀ 参加無料

❀ 定員：各回20人（先着）

❀ 集合場所：曾木小学校 1-2教室

❀ 持ち物：水筒・タオル

※当日は汚れても良い服装でご参加ください。



[協力] 大垣桜・岐阜工業・斐太・
岐阜商業・関・岐阜農林

【お申込み・お問い合わせ先】

曾木小学校 廊下イノベーション科 TEL [111-222-3333]

4. SSS 参加生徒への質問紙調査

(1) 調査の目的

平成 29 年度の SSS (Super School Session)は、平成 29 年 7 月 2 日から 8 月 22 日までの約 2 ヶ月にわたって実施された。この間に 4 回の対面によるミーティングを経て、最終日の 8 月 22 日の後半にアイデアコンクールとして活動成果としての提案発表を行った。

参加した高校生は、各回の終末に感想を記述しており、回数を重ねるごとに認識に変化がみられるようであった。たとえば、「最初は緊張していたけど、大学生の方がアイスブレイクをしてくださったので、すぐに仲良くなり、とてもよい雰囲気で見聞交換ができ、楽しかった。(第 1 回)」、「同じ課題でも人によって見方が異なり、様々な意見を聞くことができ、自分の中でも新しい発見があり、とても面白かった。(第 2 回)」、「お互いに分からないことを教え合いながらできた。全員で創りあげることの難しさや楽しさを学ぶことができた。(第 3 回)」、「各班の高校生にできることの提案の内容は、本当に自分にもできそうなことばかりで、やってみたいと思った。(第 4 回)」というように、出会いから多様な見方を感じ取り、分担しながら新しい考えを創造し、将来に向けた希望を獲得しているように思われる。何らかの認識に変容があると考えられる。また、自分たちが地域で実践してきたプロジェクトを紹介して参加者にも関心を高めて欲しいとの願いを表出しはじめる生徒も現れ、この仲間たちを信頼して共に取り組みたいという強い願いが湧き上がってきているように感じられた。すなわち、高校生は、SSS 参加に満足するだけでなく、自分や仲間、地域などに対する認識に変容しているのではないかと推察されたのである。

そこで、高校生の認識の変容を質問紙調査等により明らかにすることを発案し、分析者 3 名で調査項目を作成して、教育委員会の協力を得て実施することとした。

(2) 調査項目の作成

質問紙の調査項目は、前述の各回の感想を分析者 3 名が協議しながら作成した。第 1 回は 10 月 6 日に、第 2 回を 10 月 16 日、第 3 回を 10 月 23 日、第 4 回を 11 月 6 日に実施した。

図 1 は、第 1 回協議結果の WB (White Board) を撮影したものである。

生徒の感想には、問題解決の経験を通して、自分が如何に貢献できたかの記述が散見され、活動を通して認められているとの実感を得ながら私ができることに希望を持ち始めていると推察された。また、その影響は、SSS 活動の場において直線的でない多様な解決過程を踏むことで、これに寄与して承認される場を提供していると考えられた。さらに、人の多様性は複数の高校の生徒が集うこと、大学生が先輩モデルとして参加していること等から多様性の価値を認め始めているとも考えられた。

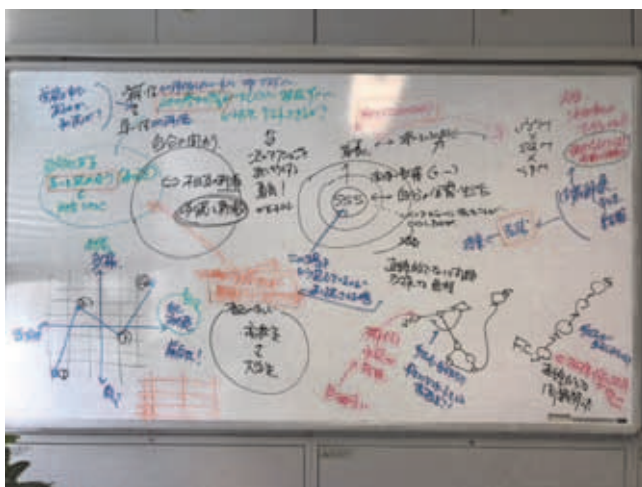


図 1 調査項目検討 (10 月 6 日)

そこで、第2回で調査仮説を再検討し、第3回で調査方法を吟味して、第4回に質問紙として完成させた（調査用紙は資料 P68 を参照）。

1) 質問紙調査の構成

調査仮説において、SSS 活動における課題解決プロセスは、「課題→課題発見方法→調査→課題解決の提案→最終発表案」と進むが、このプロセスと並行する協学成長プロセスというべきものが存在しているのではないかと考えた。協学成長プロセスは、「A:人と高校生の多様性→B:承認と刺激→C:自己肯定感」のような順序で生起すると仮説した。それは、課題解決プロセスにおける経験を通して、活動を駆動する意味や意義に気づき、おもしろいと感じながら活動を続ける意欲を与えてくれる駆動力が形成されていくプロセスであると考えた。そこでこの協学成長プロセスを明らかにするために、A:人と高校生の多様性については、「Q1-1.いろいろな人や考えが集まると学べることが多い」、「Q1-2.自分の中の変化が生じるのは多様な人と活動するときだと思う」等の質問項目とした。B:承認と刺激は、「Q1-4.自分がグループの活動に役に立つことができたとと思う」、「Q1-5.他の高校生の発言や活動等からいろいろな刺激を受けたと思う」等の質問項目である。C:自己肯定感は、「Q1-8.活動を通して人の役に立つことは大切だとあらためて思う」、「Q1-9.周りの人に自分が認められることが多くあったと思う」等の質問項目とした。

これらの質問項目への回答はリッカート尺度の6段階とし、全10問で構成した。さらに、認識変容の内容を明らかにするためには自由記述による回答が重要となると考え、「Q2.今回のSSSではいろいろな学校から高校生が参加しましたが、違う学校の人と話しやグループ活動をしていて、驚いたこと、感心したこと、魅力的に感じたこと、学んだことはなんですか。」や「Q7.SSSの活動経験に刺激を受けて、何か新しいことに取組んだり、学校での学習のしかたを変えたりしたことはありますか。どのような小さな変化でも良いので教えてください。」等の7問で尋ねることとした。

2) 概念マップの作成

概念マップは、Novak&Gowin(1973)による概念地図法 (Concept Mapping)によるものであり、2つ以上の概念とその関係から構成される命題の集まりによって意味構造を表した図形表現である。中心となるキーワードが与えられ、そこから連想される言葉や文章を書き出し、図形で囲ったり、線で結んだりして意味構造を可視化することができる。



図2 概念マップの作成についての説明

今回は、中心キーワードを「SSS の魅力」として、A3 用紙を用いて魅力となることを次々に連想しながら、その魅力に影響している経験や概念を描き出そうとした。

実施に際しては、高校生が概念マップの作成に慣れていないことが考えられたので、図 2 に示すような説明を加えて、概念マップの作成を支援した。図 2 は「環境問題」を中心キーワードとして例示したものであるが、連想される言葉だけでなく、簡単なイラストを用いて表現したり、短文で説明したりすることも奨励している。掲載した説明文は、以下のようである。

下の図のように、頭の中にあることを地図のように描いたものを概念マップとといいます。

ここでは、概念マップの作成を通して SSS においてあなたが得られたものや大事だと考えていることをふり返ることをねらいとしています。

下の概念マップの例では、中心に描かれている「環境問題」というキーワードから連想される言葉や文章を書き出し、図形で囲ったり、線で結んだりしています。図形や線の色、太さは自由で、線のところに説明を入れても構いません。イラストは必ずしも必要ではありませんが、描ける人はぜひ描いてみてください。

あなたの頭の中にある SSS の魅力を自由に描き出してください。

(3) 調査の実施と分析の概要

作成した調査用紙は、教育委員会の協力を得て、SSS 参加学校の 9 校の計 30 人の生徒に届け、学校の都合の良い時期に配布するとともに、結果の回収をお願いした。

調査対象者 SSS 参加 9 校、生徒 30 人

配布と回収 平成 28 年 11 月 16 日～12 月 13 日 学校により回答時期を指示して回収

回収率 96.7%

調査結果の分析は、分析者 3 名で協議しながら実施した。分析の第 1 回は 1 月 9 日であり、第 2 回を 1 月 16 日、第 3 回を 1 月 22 日、第 4 回を 1 月 29 日、第 5 回を 2 月 14 日に実施した。分析を協議しながら数回にわたり実施したのは、自由記述の解釈を深めるためである。

図 3 に第 2 回の WB 記録を、図 4 に第 4 回の WB 記録を示す。自由記述から得られた内容からキーワード選定し、キーワードを手かかりとして分析を進めることとした。第 2 回は、記述回答に自分



図 3 調査結果の検討 (1 月 16 日)

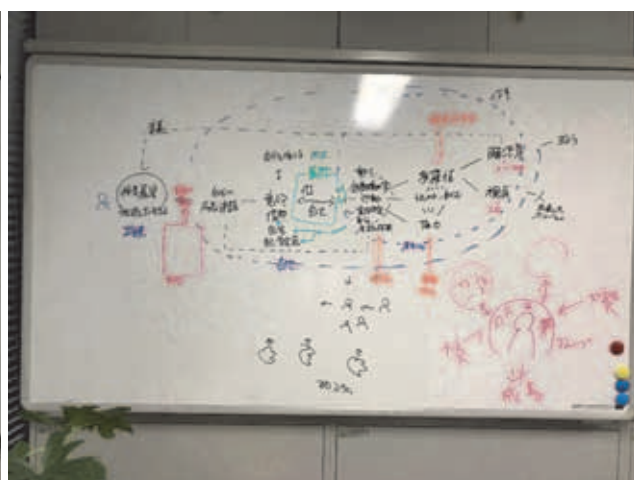


図 4 調査結果の検討 (1 月 29 日)

の将来にまで思いを展開する記述が確認でき、それらは SSS という場が「組み換えの場」として作用しており、他者の多様性と地域での活動経験が影響を与えているのとの概念を検討した。さらに、第4回には、それらの影響をさらに分析的に解釈しながら当初検討した協学成長プロセスを描き出そうとしてきた。

(4) 調査結果 1 リッカート尺度の結果分析

SSS 質問紙調査の設問 1 は、10 項目(Q101-Q110)について、「全く当てはまらない 1・2・3・4・5・6 ととてもあてはまる」の 6 段階のリッカート尺度により調査した。結果を表 1 及び図 5 に示す。

表 1 SSS 質問紙調査結果 1 活動に対する認識

質問コード	質問内容	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q101	いろいろな人や考えが集まると学べることが多いと思う	29	4	6	5.69	.54
Q102	自分の中の変化が生じるのは多様な人と活動するときだと思う	29	2	6	5.34	.97
Q103	大学生が参加しての活動には刺激されたと思う	29	4	6	5.24	.83
Q104	自分がグループの活動に役に立つことができたと思う	29	3	6	4.59	.98
Q105	他の高校生の発言や活動等からいろいろな刺激を受けたと思う	29	3	6	5.59	.78
Q106	活動を通して何か新しいことを始めたいと思うようになった	29	3	6	5.14	.92
Q107	今回参加できなかった生徒にも参加してほしいと思う	29	3	6	5.28	.92
Q108	活動を通して人の役に立つことは大切だとあらためて思う	29	2	6	5.31	1.00
Q109	まわりの人に自分が認められることが多くあったと思う	29	3	6	4.79	1.08
Q110	今回の活動が自分の学校での学びに活かされたと思う	29	3	6	4.97	.94

表 1 のように、SSS 活動に対する認識の 10 項目についての回答の平均値は全項目で 4.5 以上と高く、意図してきたような認識が形成されているといえる。とくに、Q101, Q102 の多様性への認識や、Q105 の他の高校生の発言や活動等を刺激として感じている。一方、Q104 や Q109 のグループ活動への貢献や承認については 10 項目中では低い傾向にある。

1) 因子分析による因子の抽出

活動に対する認識から、協学成長プロセスが「A:人と高校生の多様性→B:承認と刺激→C:自己肯定感」のような順序で生起するかを明らかにするために、因子分析を行って因子の抽出を試みた。主成分分析後にバリマックス回転を行い、表 2 のような 4 因子を抽出した。

表 2 活動に対する認識の因子分析結果

質問コード	質問内容	因子			
		I	II	III	IV
Q101	いろいろな人や考えが集まると学べるが多いと思う	.887	.228	.183	-.002
Q108	活動を通して人の役に立つことは大切だとあらためて思う	.798	.185	.280	.277
Q102	自分の中の変化が生じるのは多様な人と活動するときだと思う	.650	-.167	.417	.425
Q107	今回参加できなかった生徒にも参加してほしいと思う	.192	.913	.006	-.008
Q110	今回の活動が自分の学校での学びに活かされたと思う	-.020	.736	.180	.237
Q106	活動を通して何か新しいことを始めたいと思うようになった	.295	.598	.176	.402
Q109	まわりの人に自分が認められることが多くあったと思う	.318	.052	.883	-.062
Q104	自分がグループの活動に役に立つことができたと思う	.163	.266	.864	.192
Q105	他の高校生の発言や活動等からいろいろな刺激を受けたと思う	-.029	.445	.220	.753
Q103	大学生が参加しての活動には刺激されたと思う	.440	.094	-.099	.733

因子抽出法: 主成分分析
回転法: バリマックス法

因子分析結果の第Ⅰ因子を Q101,Q108,Q102 の「多様性」、第Ⅱ因子を Q107,Q110,Q106 の「展望」、第Ⅲ因子を Q109,Q104 の「承認」、第Ⅳ因子を Q105,Q103 の「刺激」と命名した。

これらの因子と当初に構想した協学成長プロセスを比較すると、「A:人と高校生の多様性」は、いろいろな人や考えが集まると学べることや、変化は多様な人との活動で生じる等の質問項目あり第Ⅰ因子の「多様性」に代表される。「B:承認と刺激」は、認められることや役に立つとの質問項目の第Ⅲ因子の「承認」と、いろいろな刺激をうけたとの質問項目で構成される第Ⅳ因子の「刺激」の 2 つの因子で代表される。最後に、「C:自己肯定感」はやや視点は異なるが他の高校生の参加を期待したり、学ぶ意義をとらえなおしたり、新しいことを始めたいとする項目で構成される第Ⅱ因子の「展望」が近いと考えられる。

各因子得点を各項目に対する回答の平均値とした。

2) 共分散構造分析による因果関係の検討

4 因子により協学成長プロセスは、「第Ⅰ因子:多様性→{第Ⅲ因子:承認, 第Ⅳ因子:刺激}→第Ⅱ因子:展望」のように修正できる。そこで、これをモデルとして共分散構造分析によるパス係数を推定した。結果を図 5 に示す。

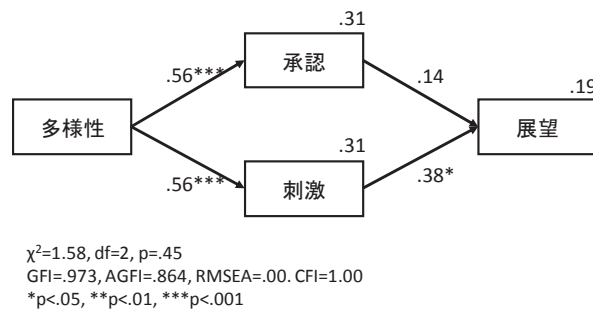


図 5 協学成長プロセスのモデル

協学成長プロセスのモデルは、多様性から承認、刺激に対するパス係数はともに 0.56 と 0.1%水準で有意であり、刺激から展望へのパス係数は 0.38 と 5%水準で有意であった。一方、承認から展望に対するパス係数は有意でなかった。

承認から展望へのパスが認められないことから、展望は承認の影響を受けず、刺激を受けた強さに影響されることになり、この刺激は多様性の大きさに左右される。

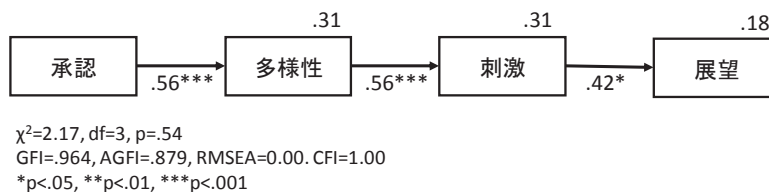


図 6 協学成長プロセスの修正モデル

一方、多様性が承認に影響するというモデルの修正を検討すると、承認が多様性に影響しているのではないかと考えられる。多様性を発揮できるのは承認されているという場の中であって初めて可能となるものであり、その承認の認識が強ければ多様性も発揮されやすいと考えることができる。そこで、モデルの修正を「第Ⅲ因子:承認→第Ⅰ因子:多様性→第Ⅳ因子:刺激→第Ⅱ因子:展望」と仮説し

てパス係数を推定した。

結果は図 6 に示すように、仮説のパスが 5%水準で認められた。

ワークショップ等のアイデア創出や合意形成の場においては、場に来るメンバーが様々な背景や視点から課題についての意見交換を行い、互いの意見に刺激を受けながら課題解決の方向性を確認したり、合意が作り上げられたりする。このような場においては、必ずといっていいほど、冒頭にアイスブレイクを行い場の雰囲気を和ませながら安心して意見を表出しやすくする。このように考えると、今回の承認が多様性を発揮しやすい場の形成に機能していると考えられることは納得できるのではないだろうか。

実際に、今回の SSS 活動においても、第 1 回はアイスブレイクの活動を入れて初対面のグループメンバーが相互に意見を出しやすいように配慮しており、そのファシリテートを大学生が担っていたのである。

(5) 調査結果 2 質問紙調査における自由回答欄の分析

1) 本章の目的

本章では、SSS に参加した高校生に対して実施した質問紙調査における自由回答欄の記述を分析し、SSS におけるチーム内での地域の課題の発見と解決策の提案に向けた活動と、その活動に伴う高校生の成長の過程を明らかにする。

SSS では、岐阜県内の高校生が地域の課題を見つけ、その原因を探り、解決策を提案することが展開された。SSS では、岐阜県下の SSH, SPH, SGH(以下、「SSH 等」)から集まった高校生によって構成されるチームごとに課題の発見から解決策の提示までを行った。SSS は、高校生のほかに、各チームにおいて議論の整理や必要な学習の支援を行う大学生スタッフ、SSS の統括を行う岐阜県教育委員会職員や岐阜県職員、講演会講師、SSS 全体のファシリテートを行い専門的な知識の提供を行う大学教員、高校からの引率教員などさまざまな人々が参加していた。

2) SSS のチームにおける「多様性」を基盤とした課題解決の過程

①チーム内の視点や考え方、解決策の「多様性」

SSS においては、5～6名で構成されるチームでの活動が基本となる。チーム内には、視点や考え方、解決策の「多様性」が存在した。物事を捉えるための視点や考え方が多様であることは、SSS における変化を尋ねた質問 3 への回答で、「色々な視点から捉えることが重要なことがわかりました。今まで自分が経験したことや学んだことはもちろん、提供された資料を用いたり誰かの考えをさらに発展させるなど多くの方法を知ることができました。」「色々な目線に立って考えることが大切だと改めて思いました。」「今まで、『高山』をどうするか?と考えていただけけれど、『岐阜』をどうするか?ということを考えるようになりました。また、岐阜の他の地域に住む人たちがどう高山を思っているのかを考えて活動できるようになりました。」という回答に示されている。そして、高校生の視点や考え方が多様であることは、解決策の多様性にもつながる。質問紙の質問 3 では、SSS における変化(学習、生活、考え方、将来など)を聞き、「様々な考え方があり解決策は一つでないと分かりまし

た。」との回答があり、多様な考え方を前提として解決策も多様なものとなっていたことも読み取れる。

このような多様な視点や考え方をチームの活動に活かすためには、他者の視点や意見を受け入れ、学び合うことが必要となる。質問3「一緒になったグループの子たちは話や行動をひとつひとつ拾ってくれて、更に広げてくれる子ばかりでうれしかったし自分もそういうことに気付ける子になりたいって思った。」、質問6「SSSの活動で行き詰ったり、どうして良いかわからなくなったとき、どうやってそれを乗り越えましたか(どのような工夫をしましたか)。あるいは、行き詰まりを突破するきっかけとなったことがあれば教えてください。」の回答では、「意見を反論をせずとにかく意見を出し合い、少しでも使えそうなところをひっぱり進んでいきました。」「とりあえず、それらの意見に妥当性があるかどうかは置いておいて、自分の意見を思いっただけホワイトボードに書き、一つずつみんなで話し合い『これだ!』と思ったものを更に深めていく。」とあり、他者の意見を否定するのではなく、出し合った意見を尊重し、活用する方向で議論がなされたことが分かる。このように、SSSにおいては、多様な意見や考え方がチームの中で出やすい環境があったことがわかる。

②チームにおける「多様性」が生み出す高校生間の刺激

SSSでは、多様な視点や考え方が共存し、高校生が互いに刺激しあいながら、チーム内で協力して課題解決策の検討に取り組んでいた。この刺激には、チームの他の高校生の存在が自身の日常生活の刺激となる場合と、チームで地域の課題解決の提案を考える際の刺激がある。前者に関しては、質問2「同じ岐阜県内に住んでいるとはいえ、地域が違うだけで気候が違ったり給食の内容が違ったりして、その違いを知れて楽しかったです。また、高校によってアルバイトをしている子がいたり、フリーペーパーを作っている子がいたり、自分の経験していないことを経験してきている子がいて、その子の話を聞くことで、日常に新たな刺激がもたらされたと思います。」とあり、環境・学校生活などの違いがもつ面白さを学び、また自分にはない経験をもつ高校生から学ぶことで、日常生活に新たな刺激をもたらしていることがわかる。SSSにおける地域課題の解決策を検討することには直接つながらないものの、チームの中での関係づくりやSSS参加へのモチベーションの維持に貢献していることも考えられる。

後者については、異なる学校の人やグループでの話し合いで気がついた点や学んだことを尋ねた質問2で、「私は去年もSSSに参加させていただきました。その時から、SSSは他の高校からの生徒さんと交流できる貴重な機会だと思っていました。この活動を通して、プレゼンテーションの仕方が上手い子だったり、皆に指示をするなどのリーダー性だったり、いろんな特技や長所を生かして活動に臨む仲間を見ることにより、自分も前向きに活動することができたのでよかったです。」「他校の人と集まって話し合いをしたとき、進んでリーダーをやる人や、自分の知識を広める人・・・など、今まで経験したことのない話し合いをした。今までは、ただ意見を出して納得していたけど、今回は意見を受け、更に問題を提起したり、何かと関連させたりと、少し発展した話し合いだった。」との回答がみられた。多様な背景を持つ高校生が集まることで、それぞれに自分にできる範囲で役割を担い、ある意見が次の問題提起につながることで議論が深まるなど、高校生同士の刺激となっていることが分かる。また、質問2で「今回のグループでは、本当に通っている科も商業・工業・農業・服飾・普通

科というようにバラバラで、みんなの見る観点がそれぞれ違うので特に物づくり系の人たちの発言はいつも自分が思いつかない『はっ』としたので、たくさんの人の意見を聞いて自分の意見として考え直したりするのが魅力的でした。」との回答もあり、チームの他のメンバーの意見や視点が自分の意見を考え直すきっかけとなっていた。

質問7「SSSの活動経験に刺激を受けて、何か新しいことに取り組んだり、学校での学習のしかたを変えたりしたことはありますか。どのような小さな変化でもよいので教えてください。」との質問に対しては、「一つの考え事に『これだ!!』と答えを決めつけるのではなく、いろいろ考え方を変えたりするようになりました。」、質問3「物事をいろいろな角度から見られるようになりました。『〇〇の方がいいな』『でも～だったら△△の方が・・・』など少し考えてから行動したり、選んだり、決め事をしたりしています。」とあり、SSS後に多角的に物事を捉えることができるようになったとの回答もみられた。以上の回答から、自分の視点・考え方と他者の視点・考え方が、敵対的なものとして存在するのではなく、共存し、互いに刺激を与えることで、自己の考えを変容させたり、議論を深めるなどのチームの創造的な活動へとつながっていると考えられる。

③SSSでの活動とSSH等での活動の間の双方向の影響

質問4「学校でのこれまでのSSH、SPH、SGHの学習のどのようなことが今回のSSSに活かされたと思いますか。」との質問に対して、「自分たちの手で地域にどんなことができるかを考えたりすることが今回のSSSのテーマとも似ていて同じ考え方で考えることができました。」とあり、SSH等で習得してきた考え方をSSSの活動で活用できていたことが読み取れる。「SGHでの『物事を多面的に見ることが大切』という学びが今回のSSSに生かすことができたのではないかと思います。そのおかげで、4回目のアイデアコンクールでは他グループのプレゼンを批判的に、また、『自分ならどうするか』ということを考えながら聞くことができたと思います。」「SPHの視点で見ると、地域の特徴を事業で取り入れるという面で、活かされたと思います。私の科では、岐阜で有名な鮎を中心に料理を考えたり、岐阜の食材で作った商品の開発をしていました。実際に提案の内容に組み込めたかは別として、アイデアを出していく上で基本にすることができました。」「特にプレゼンの構成や話し方を考える上で事前講習で教わった内容が生きた。また多角的に見るということを常に自分の頭の隅に置けるようになったため、意見に深みが出るようになったと思っている。」「課題出しから解決策の提案までの一連の流れのつくり方が活かされました。」との回答から、SSH等で学んだ多角的な物事の見方や視点、議論や発表の仕方、課題解決の方法などがSSSで活かされていたことが分かる。

同様に、「下調べの大切さ、プレゼンをする時、誰へどのように伝えたら効果的なのか、コアメッセージは何なのかということを確認することなど、課題追求・提案において大切なことを学べた。」

「僕はSGHの海外フィールドワークで実際に現地の高校生、大学生、教員らの前でプレゼンを行ったが、それに向かうまでのプロセスが役に立った。例えば、話す向きやしぐさなどはTEDのプレゼンターを参考にしたりと、そのようなものは無意識にSSSでのプレゼンに生きていたと思う。」等、報告や発表の手法に関する記述も多く、SSH等で学んだことがSSSの活動に活かされていた。

一方で、SSSの活動で学んだことがSSH等の自身の高校での活動に活かされたという回答もみられた。質問4「各グループのプレゼンの良かった点、応用できる点などを積極的に取り入れて、自分た

ちの SGH 活動のプレゼンを仕上げました。」、質問 3「社会の教科をもっと頑張ろうと思いました。社会の学習で現代の社会を知り、より地域のことへ理解を深めたいと思いました。」など、SSH 等の活動への SSS で習得した新たな手法の採用や応用、SSH 等の高校での教科に対する学習の動機づけにつながる回答も存在した。さらに、「学校の SGH ではメンバーがあまりやる気ではなかったので『私一人で頑張っても・・・』と活動にも消極的でしたが、SSS の後はメンバー全員に働きかけて積極的に活動するようになりました。」など、SSS の活動で高められた物事に取り組む積極性が、自身の高校での活動に伝播したことも読み取ることができる。

SSH 等での活動と SSS での活動は、多角的な視点で考えることや報告や発表の仕方などの共通する部分と、SSH 等での活動から SSS の活動へ、また SSS の活動から SSH 等の活動へと新たな手法の採用や応用、積極性の伝播など双方向の影響が存在したといえる。

④SSS の活動における支援者の役割と機能

このようなチームの活動を支え、議論を整理し、あるいは促進したのが、チームの支援を行った大学生や大学教員である。大学生に関しては、質問 6「提示したテーマのデメリットの解決方法に高校生ではどうしても解決できない問題で行き詰ってしまいました。しかし、大学生の方が、的確で、高校生にはない大人ならではの経験豊富なアドバイスをくださいました。そのおかげで、新しいことを学ぶ機会にもなりましたし、より、整合性の高いアイデアを組み立てることができました。」「一緒にグループで活動してくれた大学生の方の一言とかで、もう一度リセットして、そのことについてしっかり順序立てて考えることが出来た。」とあるように、大学生からの助言は、高校生にとって新しい知見をもたらし、議論を整理する助けとなり、行き詰まりを乗り越えるきっかけとなったことが分かる。大学生は、高校生の意見を尊重し、必要最低限のサポートと雰囲気づくり、意見や要点のまとめに終始徹底し、努めて自分たちがリードしすぎないように心掛けていたようである。

大学教員については、質問 6「中間発表の時に、先生から鋭い意見を言われたときは、自分たちの考えだけではいけないと考え、実際にバス会社の方にインタビューをするなどして、別の考えを見つけることができました。」との回答があり、大学教員の指摘によって自分たちの案を振り返り、現実の地域を踏まえた別の案が導き出されていた。高校生にはない大学生や大学教員の視点が刺激となり、チームの議論が整理、促進されたと考えられる。

3) SSS の活動を通じた高校生の成長と将来展望の広がり

①SSS の活動における高校生の成長の過程

SSS の活動における視点や考え方、解決策の多様性とその多様性を認め合い、学び合うことで、チームの活動が展開されるのであるが、その展開の過程では、チームに参加する個々の高校生の成長がみられる。ここでは、その成長の内容について整理する。

第一に、チームの高校生は、地域課題の背景や原因の追究、課題解決策の提案に向けて意思決定を行い、行動に移していった。例えば、質問 6 で「私たちのグループは順調に意見が出たため、第 2 回の時には解決策まで出てしまいました。そこから先をもっと深めるために、実際に岐阜バスの本社へ行ったことで、より良い意見を持つことができたと思います。」とあるように、議論して解決策を仮定

し、そこから深めていくために、実際に現地に赴くという行動に移している。

第二に、自分の中に生じた変化を尋ねた質問 3 で、「私は専門科にいるのであまりその他のことに関心を持たなかった。周囲にも似たような仲間がたくさんいて、私もその中の一人だった。でも、SSS で出会った仲間との刺激的な話し合い、出会いによって、目の前の今まで何も思わなかったことに興味を持ったり、本を読み始めたり、自分の中での成長があった。当たり前のことかもしれないけど、自分にとっては大きな成長だった。」、質問 8 「SSS 活動後、もっと地域社会、日本の社会について知りたい、勉強しなければと思い、関連する新書や大学の先生が行った講義の本を読んだりするようになりました。」とあり、日常生活での興味・関心の広がりや行動の変化がみられたことである。

第三に、質問 3 「色々な視点から捉えることが重要なことがわかりました。今まで自分が経験したことや学んだことはもちろん、提供された資料を用いたり誰かの考えをさらに発展させるなど多くの方法を知ることができました。このことはこれから生かしていきたいです。」という回答のように、議論の深化や課題の解決のための方法を習得したことである。

第四に、質問 3 「一番変わったのはリーダー性、積極性で、グループ内の一人一人が積極的に取材に行ったり、給食センターに直接電話を掛けたりしている姿から、自分も頑張らなければならないと感じて自分も進んで取り組めた。その変化が今も生きており生徒会やクラス中の活動へ生かせるようになっていく。」というように、チーム内の他の高校生の姿に刺激されて自分も積極性が増し、学校生活でもさまざまな取り組みに積極的になっていることが挙げられる。積極性はチーム内での責任感にも関連しており、「自分でも大きく変わったなと思うことは“積極的になる”ということです。特に SSS のグループでは同じ学校・地域の子がいなかったので『この地方のことは私がきちんとやっておかないと！』という意識になり、責任感も生まれました。また、バスの利用客へインタビューをすることがはじめ、とても緊張してもういやだという気持ちに何度もなりましたが、勇気を出してインタビュー・調査を行ったことによって“自分にもできるんだ”と自信もつきました。」とあるように、責任感を持って積極的に行うことで自分にもできるという自信にもつながっていることが読み取れる。質問 4 「話し合いに積極的に取り組めたり、発言回数が増えたりしました。以前まで話すのに緊張していたり、話しづらかったりしていたのに、他の生徒との交流により自分の発言に自信を持てたり、より多くの発言ができるようになりました。」とあるように、他の高校生との交流によって発言を積極的にできるようになったとの回答もあり、チームの仲間の存在が、自信を持って積極的に発言できるよう後押ししていると考えられる。

第五に、失敗をしたり、困難に直面したりしながらも、その困難を克服しようとした過程での成長がある。質問 6 では、「私たちのグループは、実際、当初の案が『実現するのは難しい』ということが事業者の方へのインタビューでわかり、その時は本当にどうしようと思いました。しかしそのときに事業者の方にアドバイスをいただいたり、新たな発見、ものの見方に気づくことができたことがきっかけで行き詰まりを突破できたと思います。」とあり、提案が実現困難であることが分かったときに、現地に赴くことや事業者と交流することで行き詰まりを突破していた。質問 6 「話し合っただけでまとまったことをホワイトボードに書きだして、書き出したところにつながるようなことを見つけたり、違う視点から考えてみた」「グループのメンバーでもう一度意見をまとめ直してみたり、角度を変えて考えてみたりしました。」との回答にみられるように、困難を克服するために、書いて議論を整理するこ

とで新しい案や発想へとつながる側面があり、議論をホワイトボードに書き出し、整理することの重要性に気付いたことが垣間見える。質問6「グループのみんなで、違う視点から考えるようにしました。実際に私たちは自分たちの解決方法は、無理という現実を見たときに、私たちに何ができるのかというところから始まり、高校生で何かを行いたいという視点で物事を見つめなおして考えていきました。」とあり、視点を変えることが困難を克服するきっかけともなっていた。

また、原点に戻ることも、困難を克服する方法として用いられていた。質問6「行き詰った時は一度自分たちが今何について話しているのかを整理したり最初の原点まで戻ってみたり確認することが多かったです。」「話し合いの中心は何なのかを再確認したり、もう一度振り返ったりもしました。」とあるように、議論の原点に戻ることで、論点を再確認し、軌道修正を行っていたことが分かる。

さらに、質問6「グループ内で研究テーマを何にするか行き詰った時、議題とは全く関係ない各校のイベントの話しをしているうちに『そういえば』と新しい意見が出てきて再び話し合いに戻ったりしました。無理に考え込んでも何も出てこないの、そういう時は一度離れて考え直すと良いのかもしれないと思いました。」との回答にみられるように、チームのテーマとは関係のないことを話すうちに、新しい意見が生まれたことから、テーマから一度離れてみることで、行き詰まりを克服できたという事例も存在した。

最後に、チームへの貢献によって自己肯定感が高まることも挙げておきたい。質問5「あなたはSSSの活動に対して役に立てた、貢献できたと思うことは何ですか。」との質問に対して、「たまにの発言になっていたけれど、考えて少し熱く話し合っているところに一つ違った意見を出すことができたのではないのかなと思います。プレゼン用の画像や作成は力不足でしたが、話し合いの場で自分は、役に立てたのではないのかなと思いました。」「グループで出た課題をもとに、学校のクラスみんなにアンケートを実施したり、地元のバスについて調べたりして、その結果をグループに伝えることが出来ました。意見を出し合う時も、最初はなかなか言えなかったけど、回を重ねていくたびに自分の意見もたくさん出せるようになりました。」「私は郡上に住んでいるということで、郡上の観光スポットで写真を撮ってきました。魅力を伝えるためにも、自分から動くことは素晴らしいと感じました。」

「岐阜市の観光について調べたのですが、岐阜市から家が遠く現地調査に参加できない分、資料作成をがんばりました。」等、他のメンバーに任せきりにするのではなく、自分のできることを考え、自分のできる範囲で行うことで、チームに貢献し、それによって自分らしい貢献のあり方を見出し、チームでの自身の存在や役割、貢献を積極的に肯定していることが分かる。

このように、チームの貢献をすることで自己肯定感が高まり、同じSSSの活動や高校生自身の高校での活動に対して積極性が増すことで、新たな活動への意欲や情熱へとつながることも考えられる。先述した質問5の回答をした高校生は、SSSによって生じた自身の変化は何かを尋ねた質問3において、「社会の教科をもっと頑張ろうと思いました。社会の学習で現代の社会を知り、より地域のことへ理解を深めたいと思いました。また、今までより岐阜市や自分が住んでいる地域の行事・活動について知りたいと思えるようになりました。また、できるだけ参加したいとも思えるようになりました。」

「学校が行う校外活動への参加が増えました。」等、高校等での学習や活動に対する意欲や情熱の高まり、また実際に活動の機会が増えるなどの変化もみられ、高校生自身の生活や学習におけるSSSの波及効果の存在が推察される。

②SSS での活動を通じた高校生の将来展望の広がり

地域の課題を他者とともに考えることは、自分の成長課題や自分の将来展望と関連させて考えることにつながる。質問3「各高校の地域貢献の取組みをフリーペーパーなどで実際に目の当たりにしました。私も高校生や若者のテンションで、地域をあらゆるカタチで盛り上げる活動に今後、積極的に参加してみたいと思いました。さらに、得意とする分野の知識を広げ、新たなニーズに挑戦できるような専門的職業人として成長していきたいと思います。」「自分は今回の SSS でグループで問題を解決する方法を話し合うことの楽しさや、岐阜という県が直面している問題について深く知り、この問題を解決するにはどのようにすればよいのかを考えたところ自分は将来的に岐阜県のためになるような仕事に就きたいと思いました。」との回答にみられるように、地域の現状や課題を知ることによって、今後の人生において自分が何に取り組むべきか、あるいは取り組むことができるかを考え、自分の将来像を地域の現状や課題に沿った形で考えるきっかけとなっていると考えられる。

将来展望については、地域と関連させて考えるという回答のほかにも、質問3「私は、もっと外の人と関わりを持とうと思うようになりました。同じ地域、同じ学校の人とばかりの関わりだけだと、考えが固定化していきます。普段関わらない人との交流で新しい考えが思いつくこともあると分かりました。なので、私は今まで、進学先は高校と同じように栄養に関係する分野へ行こうと思っていましたが、もっと他者と関わることのできる学科へ進むことも視野に入れるようになりました。」という、他の進路選択の可能性も検討するようになった回答もみられる。

4) 結論

以上のことから、SSS の活動においては、以下のようなチーム内での地域の課題の発見と解決策の提案に向けた活動の展開過程とその活動に伴う個々の高校生の成長の過程が存在した。この SSS における地域の課題解決策の検討過程と高校生の成長過程をまとめたものが図7である。

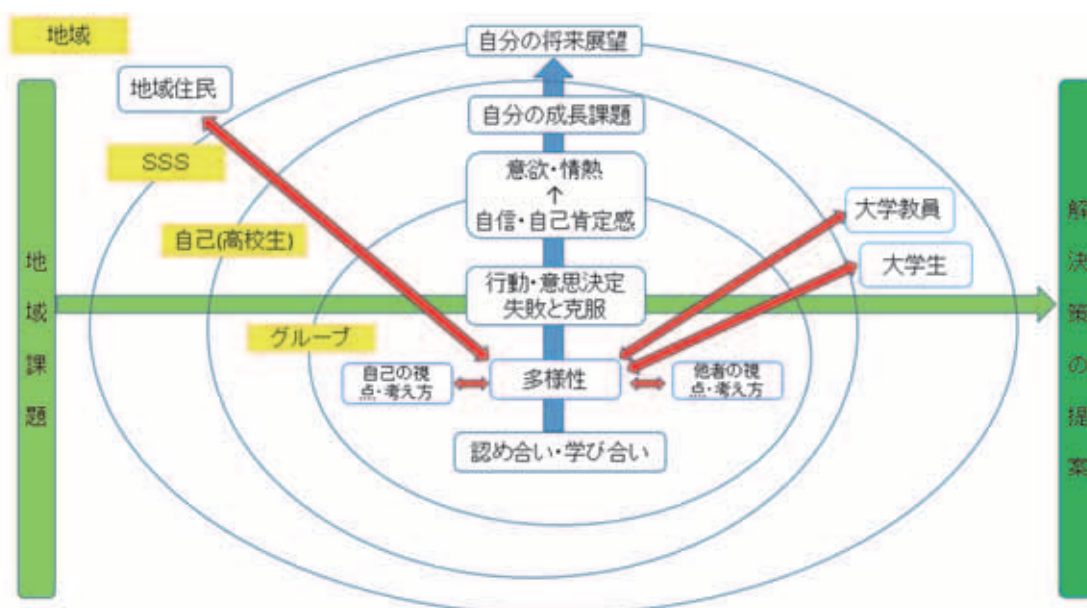


図7 SSS における地域の課題解決策の検討過程と高校生の成長過程

3) 特徴的な概念マップの分析



図 9 概念マップ事例<1>

概念マップでは、同様の言葉を使用しているものの思考の展開はそれぞれ異なり、すべてのマップに興味深い記述があるが、その中でも複数のマップに共通して見られる内容を含む、特徴的なものをいくつか考察した。

図 9 からは、5 つの特徴から個人の成長につながる課程が確認できる。

岐阜県の商業・自然・文化や少子高齢化に代表される課題など“岐阜県のことを改めて知る”ことで、“岐阜の問題点”に向き合い、岐阜の良い点を知ることによって“愛県心”を育み、自己肯定感を感じている。

仲間との白熱する議論では、新たな考えや視点が生まれることで“視野が広がって”いる。

プレゼン発表を意識して“批判的に”聞くことで、中身の深い質疑応答をしようとする姿が見られる。これまでの自己を取り巻く環境のみで形成されてきた視野が、他との関わりによって広がっている。

様々な生徒と交流することで、地域や進路、視点の“違い”があることに気がつくと同時に、尊敬の念やライバル心を持つといった“刺激”を受けていることが分かる。

パソコン・タブレット端末を使用した動画の作成やプレゼン・企業訪問のためにアポイントメントをとることなど、大学生や社会人になってからすることを先取りできたことで、消極的だった自分にもできるといった“自信”が生まれ、“積極性”や“責任感”も備わってきているようである。

これらのことを踏まえ、岐阜の未来に思いを馳せるとともに、自分自身の内面や進路についても考え始めているようである。自分自身の内面や進路について、いろいろな選択肢があることを知り、未来に向けて努力しようとする姿が見られる。



図 10 概念マップ事例<2>

図 10 では、新しいアイデアを創造することと、もともとあるものを活用するという両極端の発想を SSS の魅力と捉えている。

“他校との交流”で失敗も恐れずたくさんの意見を出し合うことで、思いもよらないアイデアを発見すると同時に、“学校の特色の違い”を知ることによって“自分の学校の良さも再発見”している。

“仲間との関わり”の中では、友情が出てきたり不満があったりするが“自分たちでひとつ

のものを創ったとき”に味わった“喜び”を含め、充実感を味わった。SSS すべてにおいて大きな充実感を味わったことが見て取れる。

まちづくりや職業など“興味をそそる講演”では、“ベンチャー精神”を学び、“若者のチカラ”や“新しいこと”に“めげずに挑戦”することを学んでいる。また、“新しく作るだけでなくもともとあるものを活用して地元ビジネスを行う”という逆転の発想が必要であることも学んでいる。

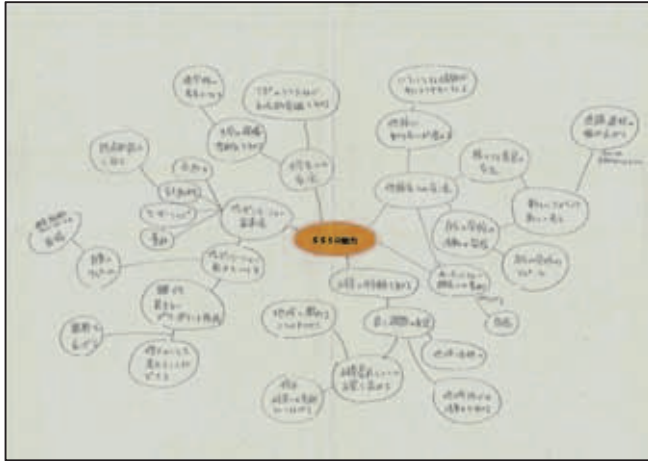


図 11 概念マップ事例<3>

を知り、“将来、岐阜県への貢献につながる”と感じている。

“プレゼンテーション発表会”のために“プレゼンテーション能力を身につけた”ことで、“誰でも見やすいパワーポイントを作成”した。それらの取り組みを通して“視野を広げる”と同時に“他人のことを考えることができ”た。



図 12 概念マップ事例<4>

伝わるかを考えるようになったり、プレゼン技術を学び、習得しそれを生かそうと努力する姿が認められる。

“相手の意見を聞き”、“相手の思いを知ることができる”し、“違う視点に気がつくことができる”ことで、“違う人の意見も受け入れることができる”ようになる。様々な人と交流し、一緒に作業する

図 11 では、プレゼンテーション資料作成の過程を特徴的に捉えている。

“他校生との交流により”、“様々な意見の交流が生まれ”、同時に“自分の学校の活動も発信”できる。“新しいアイデアや考え”が浮かび、決め付けていた思考がなくなるため、“進路選択の幅が広がった”ようである。

“他校生との交流”は“めったにない機会”で、やり遂げることが“自信”につながった。

“岐阜の特徴を知る”ことで岐阜の“良さや課題を発見”し、“岐阜県民としての自覚を高め”ることができた。“地域と関わることの大切さ”

図 12 は自身の行動を中心として思考の展開を行っている例である。

SSS で“自ら行動できる”体験から“人任せにしなくなり”、“責任感が生まれ”ている。

SSS では“自分の意見をもてる”ため、“人に流されなくなり”、“相手に意志も伝わる”ことで“変化が生まれより良くなる可能性がある”と感じている。

また、プレゼンテーション講演会で“発表の仕方が分かり”、相手にどうすれば伝わるかを考えるようになって“いる。相手にどうすれば

ことで他者を認め、それにより自己も認め、認められる行為が起こっている。

4) 概念マップ分析からの考察

SSSに参加することで、高校生はこれまでは身近でなかった岐阜県や地域の課題を認知し、新たな経験をする中で、「地域」というものに当事者意識を持ち始める。一方、他の高校の生徒や大学生などに関わりを持ち、これまでになかった多様な視点に触れることで刺激を受け、他者とそれを取り巻く地域を広く認識すると同時に、自分自身のことを見つめ始めている。4回のミーティングと自発的な実践活動により、これらが繰り返し行われることで、当事者意識の高まりと自己省察の精査が行われている。

更に内側を見ていくと、参加した高校生自身の中で、意識の組み換えが行われていると考えられる。他者との関わりによる「視野の広がり」、岐阜県民としての「自覚」により見出した SSS の「意義」や「意味」、一つ一つの課題をやり遂げたことで生まれる「充実感」や「自信」、多様性の認識により相互を「認め合う」こと、責任感を持ち「主体的」に動くことなど、意識するとならないに関わらず必然的に行われることで、これまでの自分を形成していた固定された意識が整理され、組み換えられることで、自分を高めたいという意識が形成され、自分の将来まで展望している高校生もいる。具体的には、高校卒業後の進路として大学進学という道があることや、逆に大学進学以外にも選択肢があることなど描いていた将来以外にも広く選択肢があることを認識しているようで、この概念は図 13 に示すとおりである。

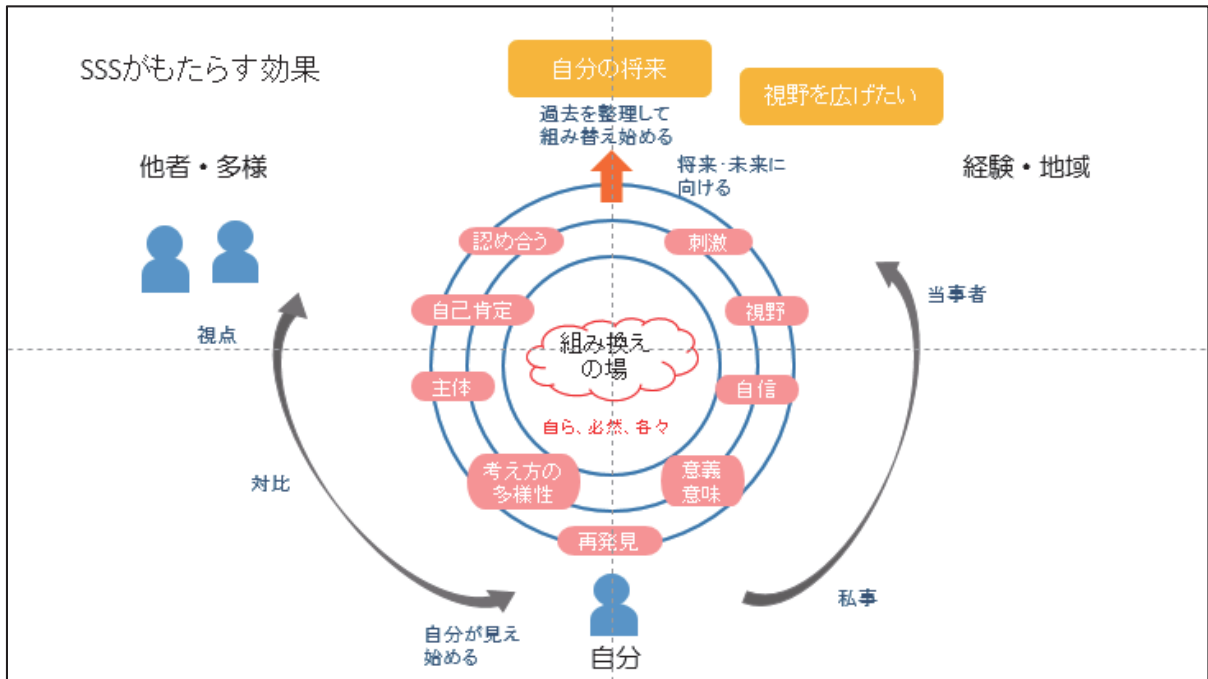


図 13 概念マップから考察する SSS がもたらす効果

(7) 結論

ここでは、質問紙調査結果の量的、質的な分析、概念マップの分析の成果を整理したうえで、全体のまとめを行いたい。

質問紙調査における仮説は、課題の発見から解決策の提案と発表までの SSS 活動における課題解決プロセスと、そのプロセスと並行する協学成長プロセスとして「人と高校生の多様性→承認と刺激→自己肯定感」のような順序が存在するのではないかということである。質問紙における多肢選択式の項目の分析から、当初の仮説から修正する形で、協学成長プロセスは、「承認→多様性→刺激→展望」というモデルとして導出した。

次に、質問紙調査の自由回答欄の分析結果は、以下の通りである。SSS は、各チームが地域の課題を発見、理解し、その原因や背景を考察し、解決策を提案するという過程があった。チーム内は、お互いに認め合い、学び合うことによって保障されるチーム内の視点や考え方、解決策の「多様性」が基盤にあり、個々の高校生がチーム内外の他者と関わることで刺激し合い、行動を起こし、失敗とその克服を繰り返しながら、チームの活動に貢献することで、自己肯定感や意欲・情熱の高まりがみられた。そして、地域の課題を理解し、解決策を提案する過程は、地域の現状や課題との関係で自分自身を見つめなおし、自分の課題に気づき、自分の将来展望を考えるきっかけとなっている。

SSS の魅力とその魅力に影響している経験や概念を描き出そうとした概念マップにおいては、「他校生との交流」「岐阜の魅力の(再)発見」に関する言葉が多くみられた。テキストマイニングを用いて分析を行い、頻出度の高い単語として、「知れる」「広がる」「他校」「交流」「発見」「向上」が挙げられた。いくつかの概念マップを分析すると、「自己肯定感」「視野の広がり」「刺激」「自信」「未来」の五つの特徴を挙げているもの、「再発見」「充実感」「発想力」などアイデアの創造や活用を SSS の魅力と考えているものなども存在する。高校生は、SSS に参加することで地域を意識し、他者と交流することで多様な視点に触れることで刺激を受け、自分自身を見つめ直す。さらに、「視野の広がり」や「充実感」「自信」などの内的な変化や組み換えが行われることで自分を高めたいという意識が高まり、自分の将来を考えることにつながっている。

これまで整理してきたことを踏まえると、課題の発見から解決策の提案と発表までの SSS 活動における課題解決プロセスと、そのプロセスと並行する協学成長プロセスとして「承認→多様性→刺激→展望」が存在していた。地域の課題を発見し解決策を提案する過程には、チーム内の視点や考え方、解決策の「多様性」の前提には、互いに認め合い学び合うという承認があり、視点や考え方、解決策の「多様性」が互いに刺激し合い、また新たな視点や考え方、解決策が生まれ、自分自身を見つめ直すことで今後の課題に気がつくことや考え方の変化などの内的な変化が生じ、地域の現状や課題との関係で自分の将来展望を考えていく過程が並存していた。

最後に、今後の課題について述べておきたい。

第一に、SSS における学習を高校生がどのように振り返るのか、また自分の行動や意識の変化はどのような意味をもつのかを高校生自身が考える機会をどのようにつくるかである。今回は、質問紙への回答などで一定の振り返りはできた可能性があるものの、より深い地域の課題の理解や解決策の提案、自己の将来展望へのつながりを意識した振り返りが求められる。

第二に、参加した高校生が自発的に学校や日常生活に SSS の成果をどのように活かしているのか、またどうすれば活かすことができるのかを質問紙や聞き取り等によって明らかにすることである。今回の調査では、SSS の活動と SSH 等の活動の双方向での影響関係の一端が明らかとなったが、より詳細な調査を行い、双方向の影響関係の構造を明らかにすることで、今後の SSS や SSH 等の発展に寄与することができると考えられる。

第三に、課題解決プロセスと協学成長プロセスのモデルの精緻化や汎用性の検討である。今回は質問紙調査が主であり、参与観察や聞き取りなどで質的な分析を加えることで、課題解決プロセスと協学成長プロセスのモデルの精緻化を図る必要がある。また、今回提示した課題解決プロセスと協学成長プロセスのモデルは、地域住民が行う地域づくり実践や、学校教育における地域の課題解決に向けた教育実践等への応用も考えられるため、他の実践との比較検討を行うことで、汎用性のある地域の課題解決に関する教育・学習理論の構築を目指したい。

第四に、大学教員や大学生の SSS における支援の効果や課題の検討である。今回の調査では、大学教員や大学生の働きかけがチーム内の議論を促し、困難を乗り越えるきっかけをあたえていたなどの効果が見られた。一方で、課題解決プロセスと協学成長プロセスをより促進するための支援の方法については模索段階でもあり、他の同様の地域課題解決に関する教育・学習理論や実践を参考にしつつ、課題解決プロセスと協学成長プロセスにおける支援のあり方の検討を行っていききたい。

5. おわりに

今回、スーパーハイスクールセッションに本学からも参画させていただき、高校生や大学生が、課題として与えられた岐阜県の活性化について、課題発見・調査・課題解決の提案・プレゼンなどのプロセスを通じて想像以上の活動を展開し、悩みながらも互いに力を出し合い、最後には笑顔になっていく姿を目の当たりにさせていただきました。

その姿からスーパーハイスクールセッションに参加した高校生や大学生が、私たちが考える以上に多くのことを学んでいるのではないかという問いをもち、この機会に学びの成果を記しておきたいと考えました。報告書としてまとめるために、高校生及び大学生への質問紙調査などを実施させていただき、その分析に基づいて成果を報告するようにしました。そして、参加者が笑顔になっていくのは「協学成長プロセス」が効果的に機能し、「協学成長」を実感しながら将来への展望を豊かなものとしていくことができるからだと考えはじめています。

教育委員会や各スーパーハイスクールの先生方からは、『「人前で話すのが苦手」な生徒が参加したが、活動を通じて『苦手意識』を克服するきっかけとなった』、『SGH 活動の中でも、一部の生徒が他校の生徒と連携した活動を始めた』など、変容していく生徒の姿もうかがっております。さらに、本学で学びたいと願いながらスーパーハイスクールセッションに参加した生徒に先日会うことができました。合格を報告しながら握手をしてくれた生徒の顔には希望が満ち溢れているのが感じられとても嬉しく思いました。そして、将来展望を豊かにすることは学びにおいてとても意味のあることだと確信し始めています。

高大連携の重要性が叫ばれる中、このスーパーハイスクールセッションの成果が、高等学校や大学にとってだけでなく、参加した高校生や大学生若しくはこれに関わる教職員等にももたらされていることを知っていただければ幸いに存じます。

最後に、作成にあたりご協力いただいた岐阜県教育委員会、各スーパーハイスクールの先生方に感謝の意を表します。

そして、何より、約2か月という短い期間で学びを深め、成長していく姿を私たちに見せてくれた高校生及び大学生の皆さんに心より感謝いたします。

資 料

平成29年度「魅力ある高校づくり推進事業」におけるスーパーハイスクールの深化実施要項

平成29年5月10日

岐阜県教育委員会

1 目的

学んだ知識を社会と関連付けながら経験によって磨き、将来、グローバル社会で活躍したり、科学技術の発達に貢献したりする取組を進めるため、本県のスーパーハイスクール（スーパーグローバルハイスクール（1校）、県指定スーパーグローバルハイスクール（4校）、スーパーサイエンスハイスクール（2校）、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（2校））から意欲のある生徒たちが集まり、互いの研究成果を生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな事業展開につなげられる取組を実施する。

2 研究指定校

県立のスーパーハイスクール9校とする。（大垣北高等学校（スーパーグローバルハイスクール）、関高等学校、岐阜商業高等学校、多治見北高等学校及び斐太高等学校（県指定スーパーグローバルハイスクール）、恵那高等学校及び岐阜農林高等学校（スーパーサイエンスハイスクール）、大垣桜高等学校及び岐阜工業高等学校（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール））

3 事業の実施

（1）スーパーハイスクールセッション（SSS） 全3回

ア 県立のスーパーハイスクール9校の生徒（各校3～5名程度）が集まり、1グループ6名程度のグループを編成する。（全5～6グループ程度）

イ それぞれのグループにおいて、研究テーマを設定。県内の各種団体や企業の抱える課題等をリサーチし、その中で地域の活性化に繋がる内容を研究テーマとする。

ウ 全3回のSSS会議の中で、互いの研究成果を生かして連携し企画書を作成する。

エ 研究テーマの設定や企画書の作成にあたり、岐阜大学の大学院生の助言を受ける。

（2）SSS企画審査会

ア グループによるプレゼンテーション（形式は問わない）

イ 審査は5名程度の審査員で行う。（例 教育委員、教育次長、学校支援課長、大学教授等）

ウ グループの中から優秀な企画を選定する。

4 経費

学校支援課長は、研究指定校に対し、予算の範囲内で本事業を実施する上で適切と認められる経費を令達する。

H29 スーパーハイスクール実施要項

5 スケジュール

- ・第1回スーパーハイスクールセッション（SSS） 平成29年7月2日（日）
- ・第2回スーパーハイスクールセッション（SSS） 平成29年7月28日（金）
- ・第3回スーパーハイスクールセッション（SSS） 平成29年8月20日（日）
- ・SSS企画審査会 平成29年8月22日（火）

6 会場

岐阜大学教育学部（岐阜市柳戸1-1）

7 その他

- （1）県教育委員会は、事業の実施に当たり、指導・助言を行う。また、必要に応じて事例の提供や、成果の報告等を求めることができる。
- （2）本事業は、県教育委員会と岐阜大学地域協学センターの共催で実施するものとする。
- （3）この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

Super High School Session 2017

「岐阜県の活性化

—地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！—

アイデアコンクール実施要項

岐阜県教育委員会学校支援課

1 目 的

学んだ知識を社会と関連付けながら経験によって磨き、将来、グローバル社会で活躍したり、科学技術の発達に貢献したりする取組を進めるため、本県のスーパーハイスクール（スーパーグローバルハイスクール（1校）、県指定スーパーグローバルハイスクール（4校）、スーパーサイエンスハイスクール（2校）、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（2校））から意欲のある生徒たちが集まり、互いの研究成果を生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな事業展開につなげられる取組を実施する。

2 開 催 日

平成29年8月22日（火）

3 会 場

岐阜大学

4 参加生徒

県立スーパーハイスクール9校の希望者

スーパーグローバルハイスクール 大垣北高等学校、岐阜商業高等学校、関高等学校、
多治見北高等学校、斐太高等学校

スーパーサイエンスハイスクール 恵那高等学校、岐阜農林高等学校

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

大垣桜高等学校、岐阜工業高等学校

5 発表内容

『岐阜県の活性化 —地域の課題を発見し、解決策を提案しよう！—』をテーマに、それぞれのグループにおいて、互いの研究成果を生かしながら、企画書を作成し、発表する。

ただし、内容には、次の2点を盛り込むこと。

①県や市町村等への提案

②高校生が実施可能なプラン

アイデアコンクール実施要項

6 発表規則

- (1) 発表時間は、7分程度とする。指定時間より大幅に不足又は超過の場合は減点対象とする。
- (2) プレゼンテーションソフト(PowerPoint など)や、手書きの提示資料(模造紙、ポスターなど)などを用いて行うこと。
- (3) 発表資料への映像、音声の埋め込みを最初の1分程度入れること。
- (4) 作成した実物(農作物、部品、実験装置、機器等)を提示及び使用してもよい。
- (5) 専門分野に詳しくない聴衆が聞いても、発表内容が理解できるよう工夫して発表すること。
- (6) 発表終了後、発表内容に関して、質疑応答(5分程度)を行う。質問は審査員だけでなく、他の参加発表者も積極的に行う。質問内容も審査対象になる。また、質問者は同一人物に偏らないようにチームで配慮すること。
- (7) 発表資料の作成に当たっては、著作権や肖像権などに配慮すること。

7 審査基準

- (1) 話し方 : 表現、声の大きさ、適度な速さ、明瞭さ、アイコンタクト
- (2) 内容 : 構成力、分かり易さ、実現可能性、独自性
- (3) 発表資料 : 効果的な資料の使用、発表内容との関連性、情報の収集方法
- (4) 即興性 : 質問への対応力、他の参加者へ簡潔かつ適切な質問をする力
- (5) 協力 : チームとして全員で協力していたか

8 審査員

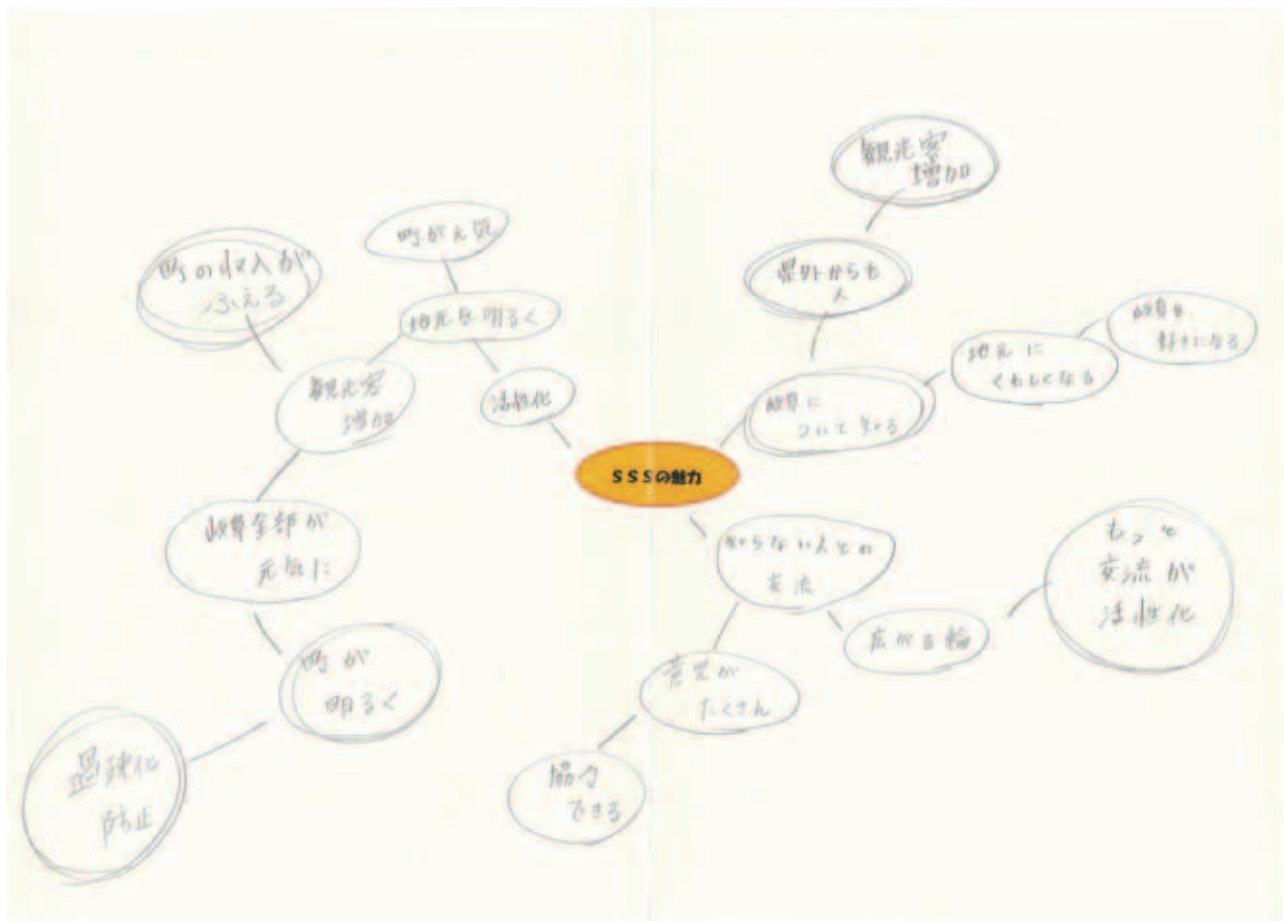
大学教員、教育委員、教育委員会幹部等

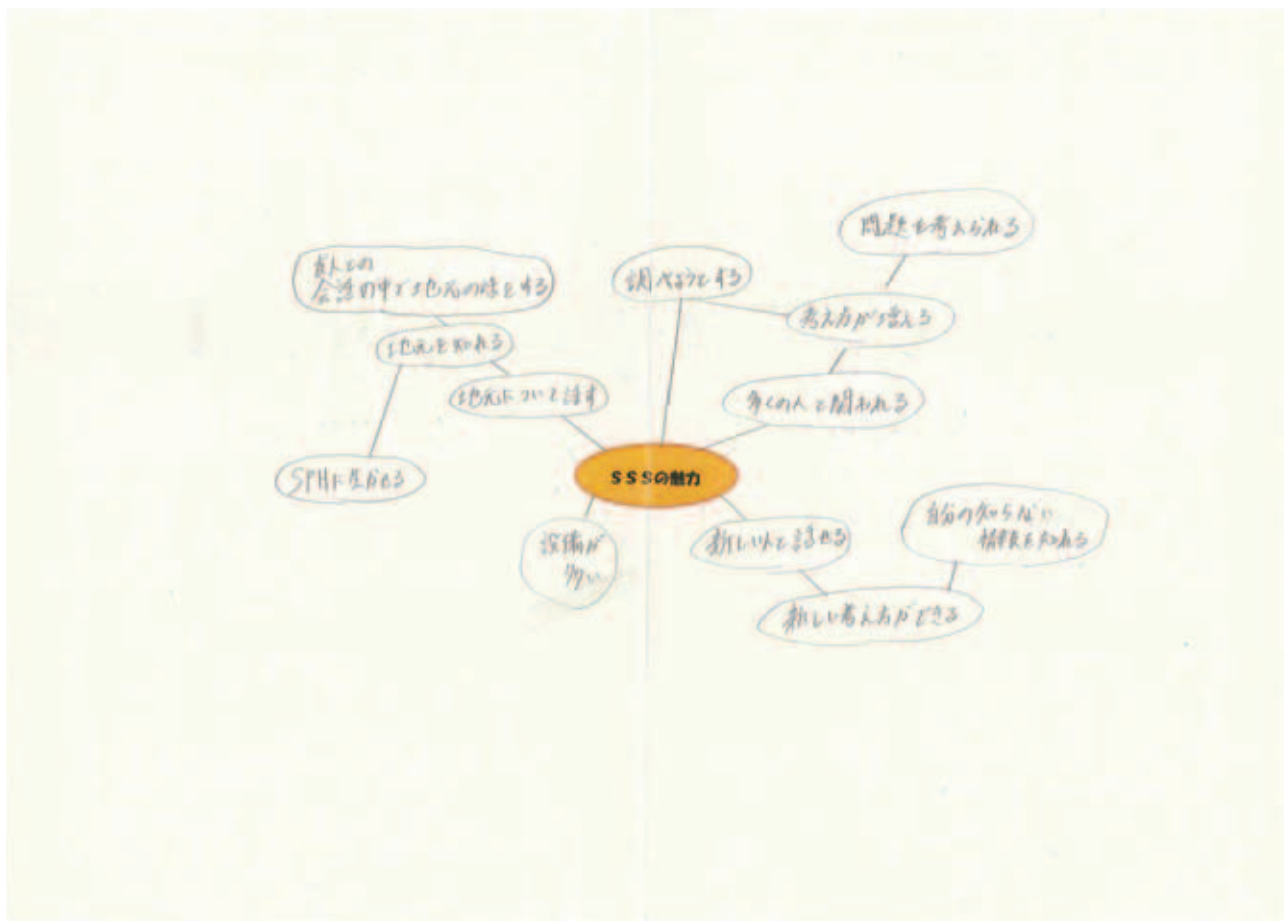
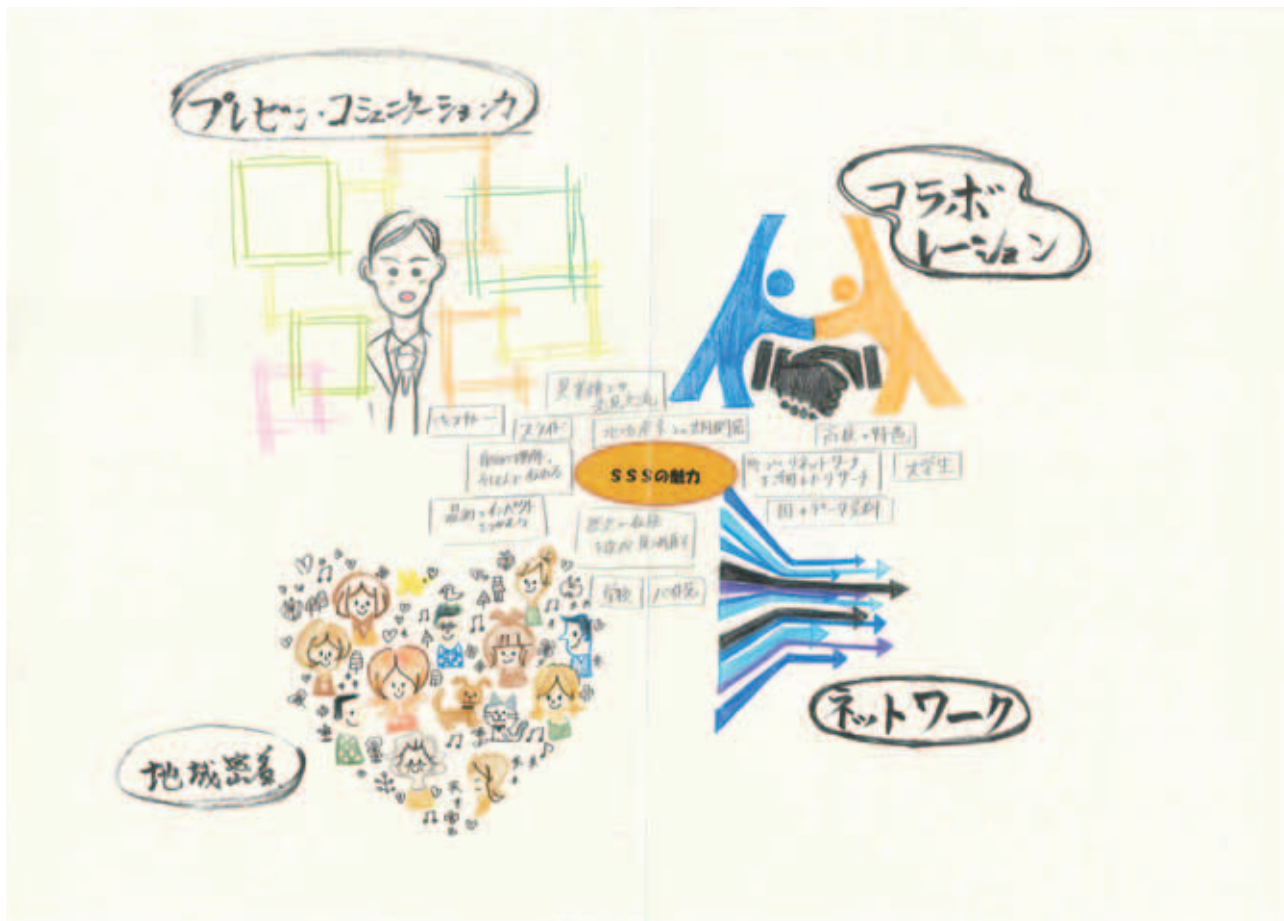
9 表彰

上位2グループ

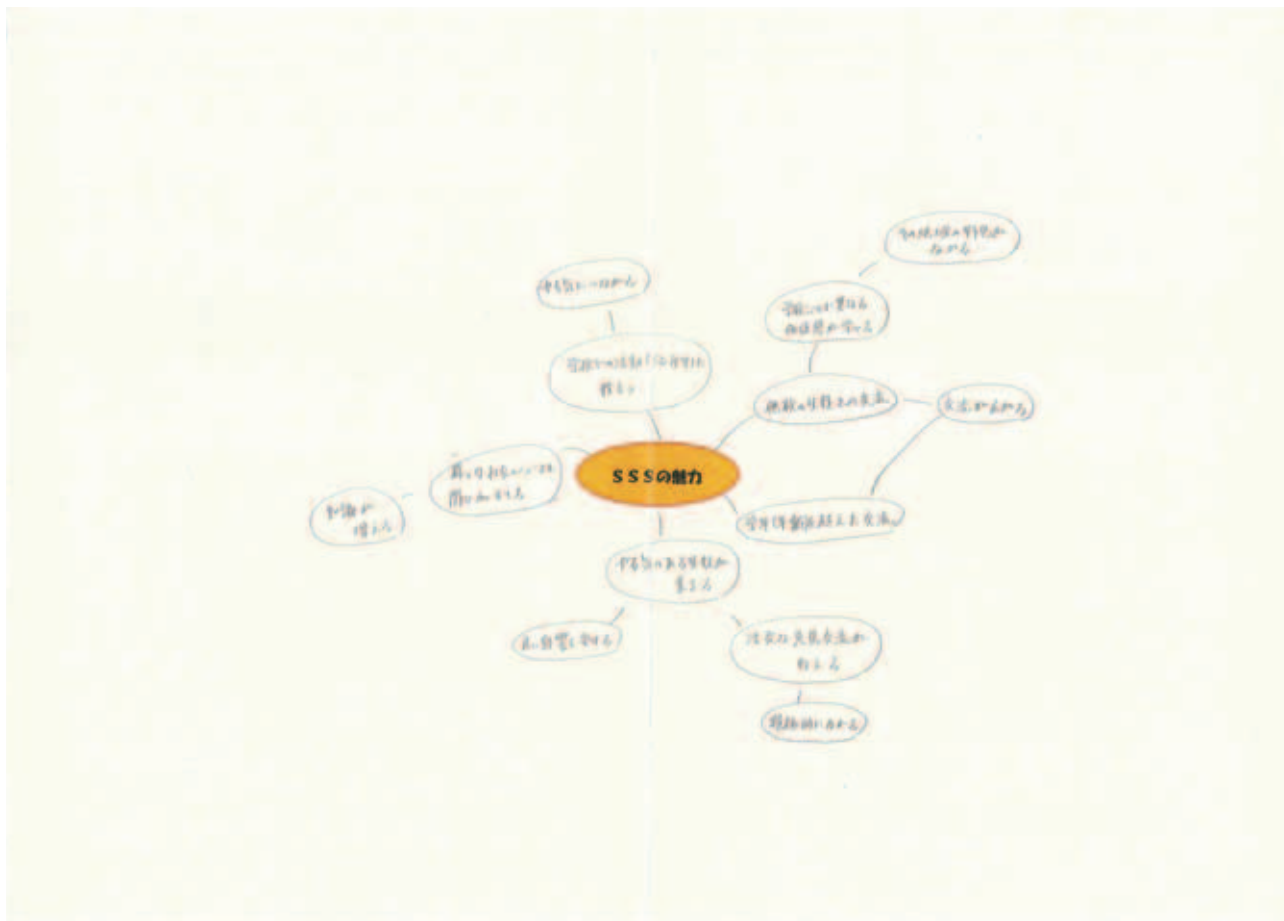
10 大会当日の流れ

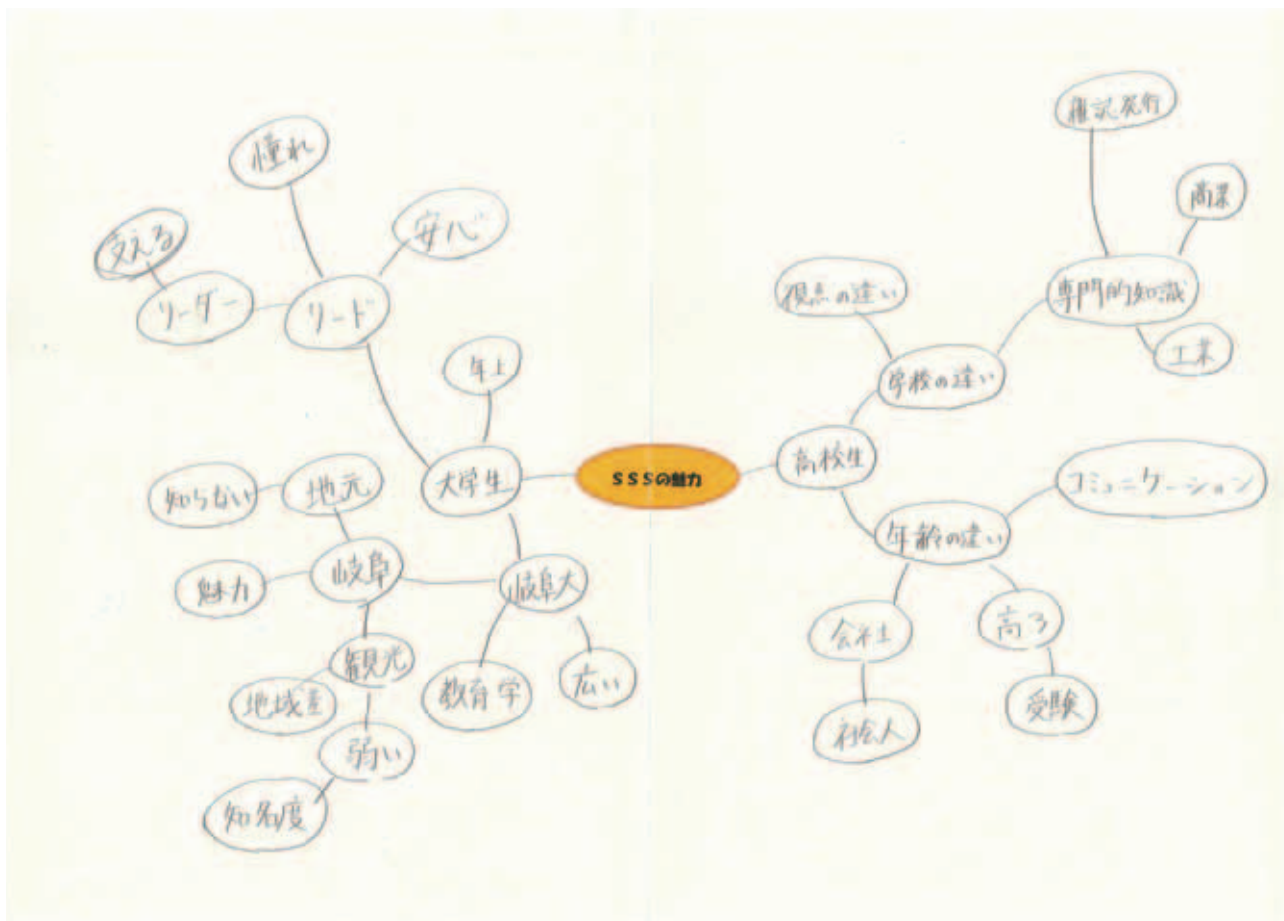
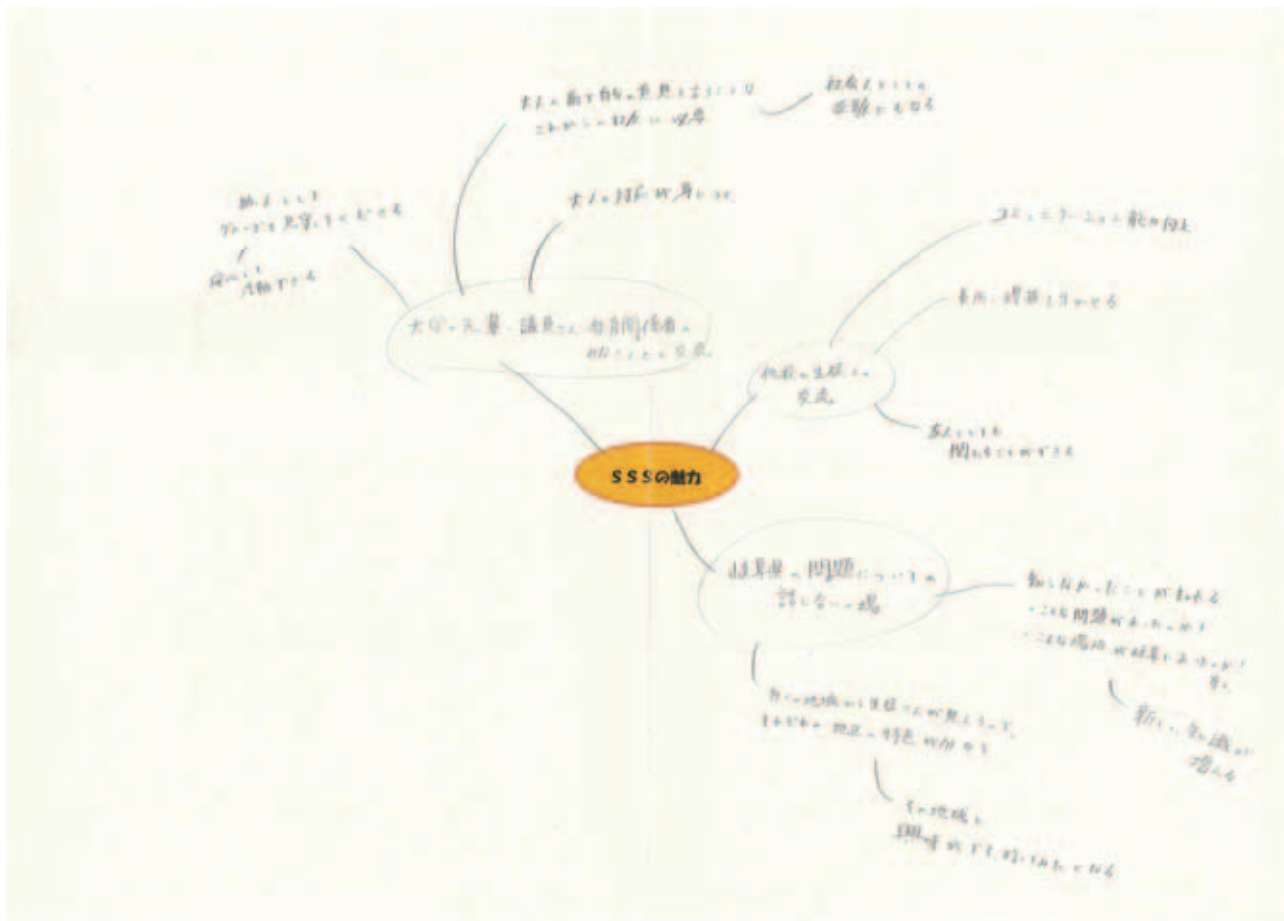
- (1) 受付(9:45~)
- (2) 発表準備(10:00~12:00)
 - ・各グループで、発表に向けて最終的な調整を行う。
- (3) 昼食(12:00~13:00)
- (4) アイデアコンクール開会(13:00)
 - ・県教育委員会挨拶、大会・ルール説明、審査員紹介
- (5) 発表(13:15~15:00)
 - ・1チーム・・・所要時間15分(7分発表+5分質疑応答+3分設定準備)
- (6) 審査時間・休憩(15:00~15:30)
- (7) 閉会式(15:30~16:00)
 - ・審査員総評、審査発表、表彰、県教育委員会挨拶、記念撮影



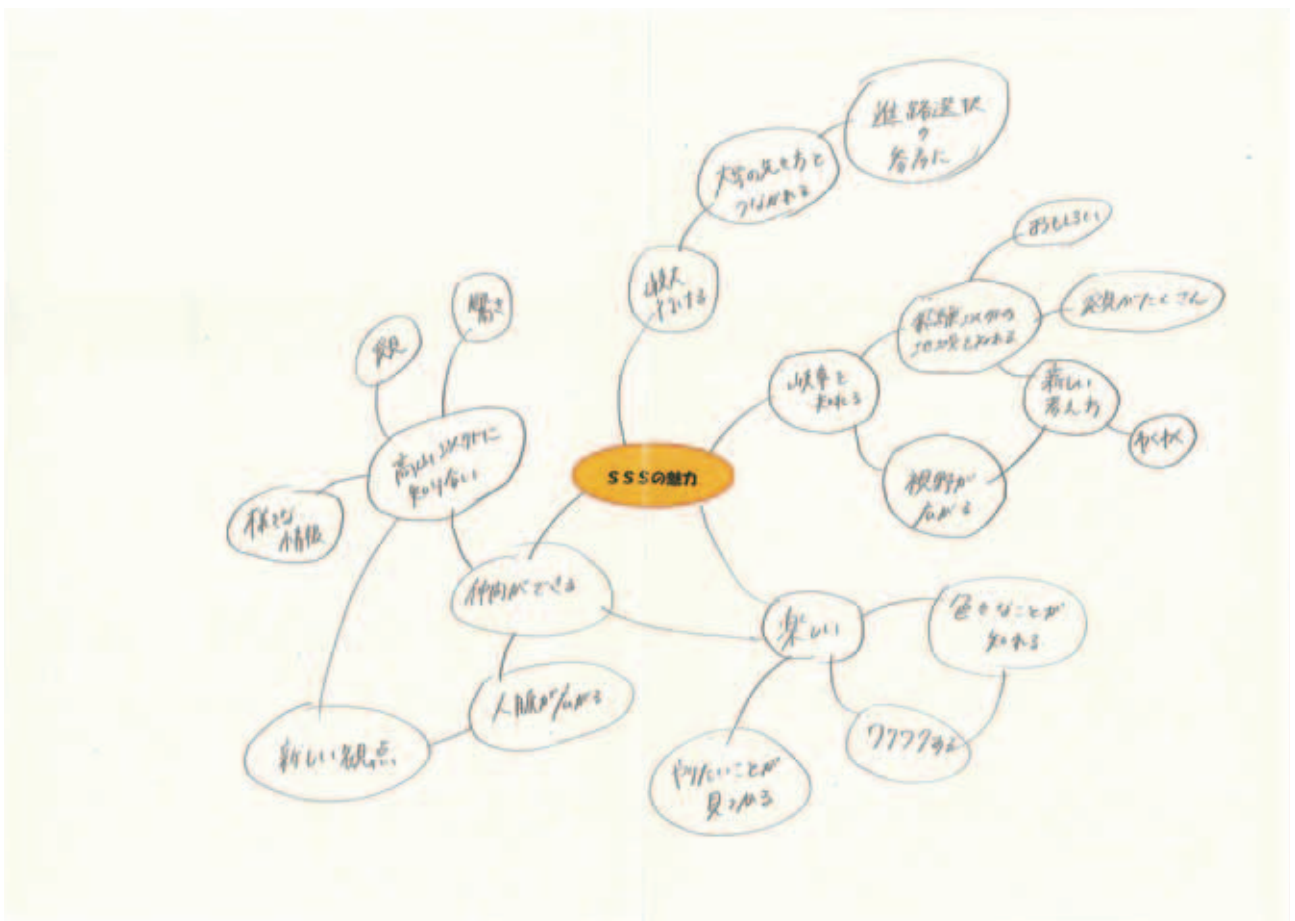


参加高校生による概念マップ

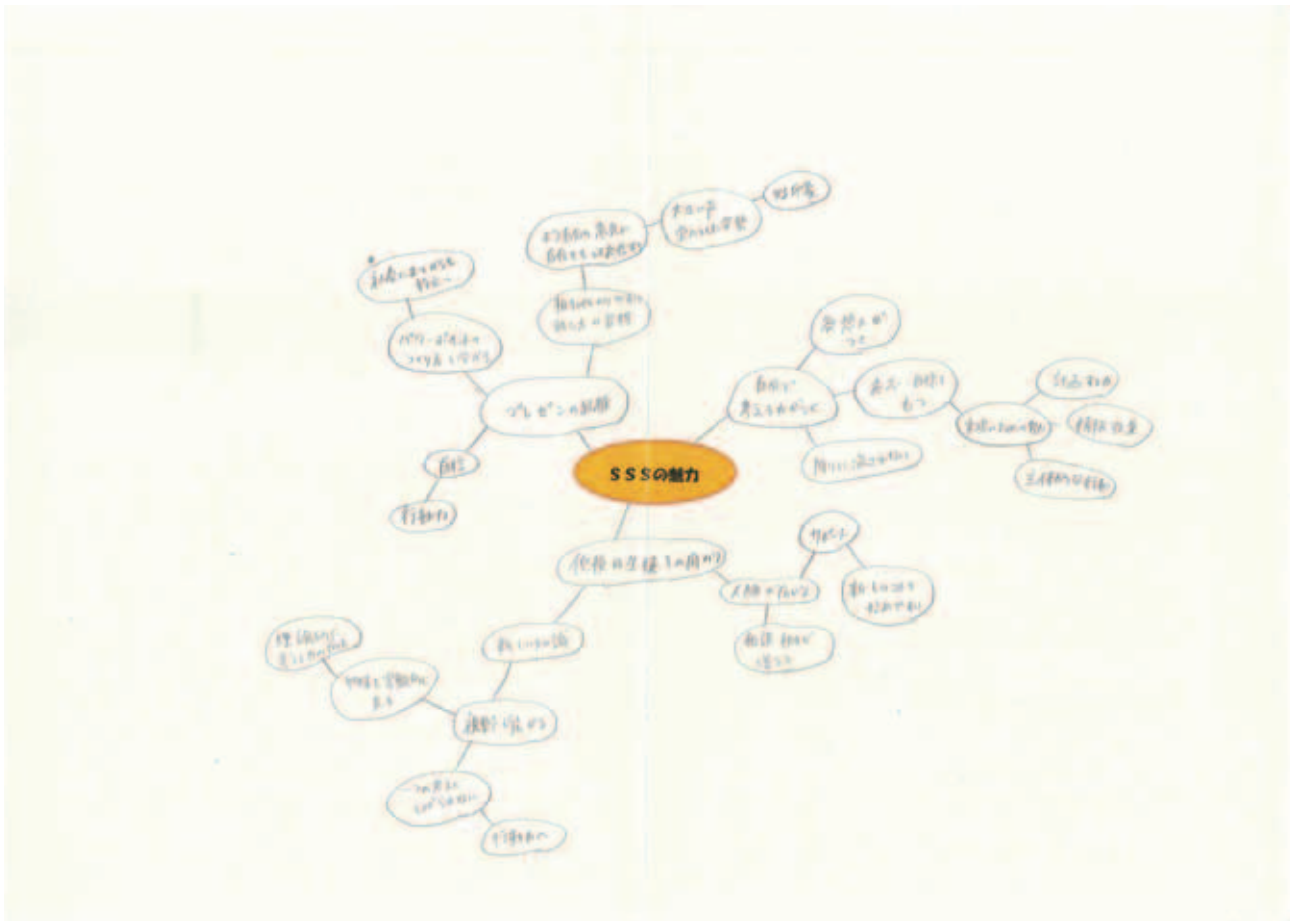




参加高校生による概念マップ

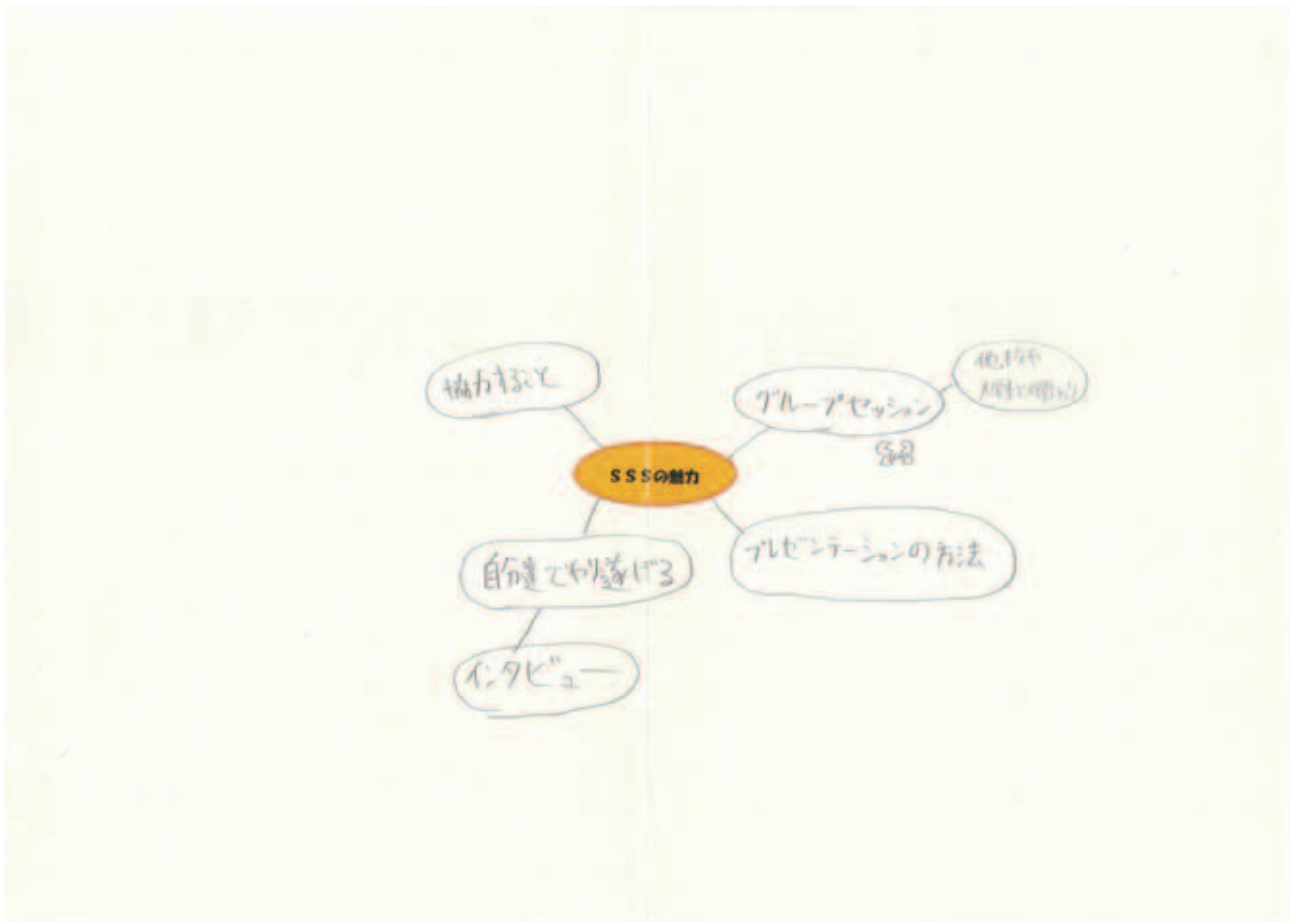


参加高校生による概念マップ





参加高校生による概念マップ





SSS についてのアンケート

このアンケートは、SSS に参加された生徒の皆さんにお願いしています。

SSS に参加した皆さんの学びを調査させていただき、今後の SSS や高校生の学びについての方法や内容等を改善するための資料とするものです。

どの質問にも正解や良い答えを探るのではなく、自分の考えを率直に回答してください。

1. 今回の SSS の活動において、次のことはどの程度あてはまりますか。1 から 6 の数値に○をつけてください。
(全くあてはまらない 1-2-3-4-5-6 とともあてはまる)

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| ① いろいろな人や考えが集まると学べると思うことが多いと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ② 自分の中の変化が生じるのは多様な人と活動するときだと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ③ 大学生が参加しての活動には刺激されたと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ④ 自分がグループの活動に役に立つことができたと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑤ 他の高校生の発言や活動等からいろいろな刺激を受けたと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑥ 活動を通して何か新しいことを始めたいと思うようになった | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑦ 今回参加できなかった生徒にも参加してほしいと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑧ 活動を通して人の役に立つことは大切だとあらためて思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑨ まわりの人に自分が認められることが多くあったと思う | 1-2-3-4-5-6 |
| ⑩ 今回の活動が自分の学校での学びに活かされたと思う | 1-2-3-4-5-6 |

次の問に文章で回答してください。

2. 今回の SSS ではいろいろな学校から高校生が参加しましたが、違う学校の人と話しやグループ活動をしていて、驚いたこと、感心したこと、魅力的に感じたこと、学んだことは何ですか。

3. 上記の間 2. で記入した内容によって、あなたの中で生じた変化（学習、生活、考え方、将来など）は何ですか。

4. 学校でのこれまでの SSH, SPH, SGH の学習のどのようなことが今回の SSS に活かされたと思いますか。

5. あなたは SSS の活動に対して役に立てた、貢献できたと思うことは何ですか。

6. SSS の活動で行き詰まったり、どうして良いか分からなくなったとき、どうやってそれを乗り越えましたか（どのような工夫をしましたか）。あるいは、行き詰まりを突破するきっかけとなったことがあれば教えてください。

7. SSS の活動経験に刺激を受けて、何か新しいことに取組んだり、学校での学習のしかたを変えたりしたことはありますか。どのような小さな変化でもよいので教えてください。

8. SSS の活動で知り合った人と、今も継続して連絡していることはありますか。どのような連絡を取り合っているのかを教えてください。

スーパーハイスクールセッション【SSS】2017

地域協学センター

概要

岐阜県内のスーパーハイスクール（※）9校の生徒が集い、互いの研究成果を生かして連携し、自発的で自由なアイデアを出しながら県の活性化のための課題とその解決策を提案する、スーパーハイスクールセッション【SSS】を岐阜県教育委員会と共同で開催。

内容

第1回 7月2日（日）

◆講演

- 「データから見た岐阜県の特徴と課題」
岐阜県商工労働部労働雇用課
管理調整監 清水 浩二氏
- 「『まちづくり』を自分の仕事に」
多治見まちづくり株式会社
ゼネラルマネージャー 小口 英二氏

◆グループ研究

みんな緊張の面持ち。大学生のリードで仲良くなったあと、課題を検討しました。



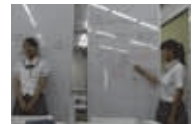
第2回 7月28日（金）

◆プレゼンテーション講習会

日本福祉大学国際福祉開発学部
教授 影戸 誠氏

◆グループ研究

どんな課題に取り組むか話し合い、課題を発表しました。



第3回 8月20日（日）

◆グループ研究

課題の解決策の研究と企画案の作成。次回の発表会に向け、どのグループも急ピッチで作業を進めました。

第4回 8月22日（火）

◆グループ研究

発表に向け最後の調整と発表練習。練習する声にも自然と力が入ります。

◆SSSアイデアコンクール

3回にわたって検討した課題の解決策を提案しました。

各グループとも、パワーポイントや配布資料にも工夫を凝らし、全員で協力して発表していました。また、質疑応答も活発に行われました。



厳正な審査の結果、最優秀賞には3班の「バス事業の現状～高齢者が利用したくなるバスへ～」が、優秀賞には5班の「廃校イノベーション～食と人から岐阜を知る～」が選ばれました。



※スーパーハイスクールは、岐阜県内で指定された以下の高校。（H29年度）

スーパーグローバルハイスクール【SGH】 大垣北（国指定）、関、岐阜商業、多治見北、斐太（県指定）
スーパーサイエンスハイスクール【SSH】 恵那、岐阜農林
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール【SPH】 大垣桜、岐阜工業

編集・執筆者

岐阜大学教育学部附属学習協創開発研究センター	加藤 直樹
岐阜大学地域協学センター	後藤 誠一
同 (地域コーディネーター・岐阜県派遣)	松原 裕子

平成 29 年度

スーパーハイスクールセッション成果報告書

平成 3 0 年 3 月 発行

編集兼発行者 岐阜市柳戸 1 番 1 [〒501-1193]

岐阜大学地域協学センター

責任者 益川 浩一

印刷所 株式会社コムラ

岐阜市三輪ぷりんとぴあ 3